

令和元年千葉市教育委員会会議
第2回臨時会会議録

千葉市教育委員会

令和元年千葉市教育委員会会議第2回臨時会会議録

日時 令和元年7月31日(水)
 午後10時00分開会
 午後 4時55分閉会
 場所 第一・二会議室

出席委員 教 育 長 磯野 和美
 委 員 中野 義澄
 委 員 和田 麻理
 委 員 小西 朱見
 委 員 千葉 雅昭

出席職員	教 育 次 長	神崎 広史	教育指導課指導主事	鈴木 恵子
	教 育 総 務 部 長	布施 俊幸	教育指導課指導主事	林 圭央理
	学 校 教 育 部 長	伊藤 裕志	教育指導課主任指導主事	鈴木 巧
	千葉高等学校長	遠藤 明男	教育指導課指導主事	佐藤 典子
	稲毛高等学校長	佐藤 啓之	教育指導課指導主事	仲村 純子
	総 務 課 長	南 久志	教育指導課指導主事	平澤 典之
	教 育 指 導 課 長	鶴岡 克彦	教育指導課主任指導主事	豊川ますみ
	教育指導課統括指導主事	山田 隆	教育指導課指導主事	岡田 直美
	総務課総括主幹	大須賀隆之	教育指導課指導主事	丸山 武
	総務課課長補佐	渡邊 直子	教育支援課主任指導主事	三橋 一裕
	教育指導課主任指導主事	小石 伸一	教育支援課指導主事	田邊 寿晃
	教育指導課指導主事	福水 勝利	保健体育課指導主事	中村 正人
	教育指導課指導主事	石塚 千佳		

書 記 総務課総務班主査 金井 昌樹 総務課主任主事 安藤 俊介
 総務課主査補 今井 純子 総務課主任主事 松元 秀之

1 開会

磯野教育長より開会を宣言

2 会議の成立

過半数の委員の出席により会議成立

3 会議録署名人の指名

磯野教育長より中野委員を指名

4 会期の決定

令和元年7月31日（1日間）とすることで全委員異議なく決定

5 議事日程の決定

議事日程を全委員異議なく決定

6 議事の概要

(1) 議決事項

議案第32号 令和2年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

遠藤千葉高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第33号 令和2年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

佐藤稲毛高等学校長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第34号 令和2年度使用千葉市立中学校用教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）の採択について

神崎教育次長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第35号 令和2年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について

神崎教育次長及び鶴岡教育指導課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

議案第36号 令和2年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について

神崎教育次長より説明があった後、審議。無記名投票の結果、下記のとおり採択することと決定した。

(2) 発言の要旨

議案第32号 令和2年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について

磯野教育長 千葉高等学校長、説明をお願いします。

遠藤千葉高等学校長 議案第32号「令和2年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により、議決を求めるものであります。

千葉高校の遠藤です。どうぞよろしくお願ひいたします。

では、別とじになっております参考資料「令和2年度使用教科用図書選定理由書」をご覧ください。

1 ページ、選定方針について、ご説明を申し上げます。

最初に、1の「本校の実態及び重点目標」についてです。

本校では、ほぼ全員が進学を希望しているという状況を踏まえ、「各教科の指導内容を充実させ、基礎・基本の学力の定着と個々の適性の伸長を図り、自己教育力の育成を図る」という学校教育目標を掲げております。

また、千葉市の「科学都市戦略構想」のもと、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校として、生徒の科学的能力の伸長や国際性の涵養を図ることに取り組んでおります。

重点目標につきましてはそれらを踏まえたものにしておりまして、(1)として、確かな学力の定着と主体的な学習活動の展開、(2)として、SSHのプログラムによる思考力・判断力・表現力の育成を掲げております。

次に、2の「本校に求められる教科用図書の特色」でございますが、まず普通科におきましては、生徒の実態を踏まえたレベルの教科書であるということを前提としまして、次の4点を掲げております。発展的な内容まで幅広く扱っていて、興味・関心を高める表記があるかどうか。最新のデータに基づく資料等が挿入されているかどうか。応用・発展や研究問題が配置されているかどうか。SSHに必要な専門的・探究的な内容、大学連携を視野に入れた内容等があるかどうか。

以上を踏まえて選定をしております。

また、理数科では、普通科の教科用図書の特色を前提とした上で、課題研究や探究活動等の内容が充実しているかという観点を加えております。

したがって、理数科におきましては、理科の物理・化学では、普通科に比べてより踏み込んだ内容を扱った教科書を選定しております。

また、普通科と同じものを使用している教科・科目であっても、

補助教材やプリントを活用し、内容を深め、理数科としての特色を出すように努めております。

最後に、3の「選定基準」でございますが、記載のとおり、校内で教科書選定委員会を設置して、適正に選定を行っております。

現行の学習指導要領が平成25年度から実施されております。平成28年度からは、各教科書会社が改訂版を出しました。その改訂版が出たタイミングで、本校の教育により合致している教科書をこの2、3年で選定し直してまいりましたので、今年度は、ほとんどの教科書で継続して使用することにしております。

それでは、次に、各教科について説明をいたします。

3ページ、令和2年度使用高等学校教科用図書選定理由書をご覧ください。来年度変更となる教科書を中心に説明をいたします。まず、国語です。

2年生で使用いたします「現代文B」と「古典B」の教科書を変更いたします。

通し番号で申し上げますと3番と4番です。同じく、5番、6番にありますSSHコースの生徒向けの科目であります「SS－国語α」、それから、7番、8番にあります理数科生徒向けの科目の「理数国語α」、こちらのほうも同様の変更をいたします。

今年度まで、どちらも第一学習社の教科書を使用しておりましたが、数研出版の教科書に変更いたします。

1年生の科目、2番ですけれども、「国語総合」では、既に今年度から、第一学習社から数研出版の教科書に変更して使用しています。数研出版の教科書の特色といたしましては、「現代文B」では今注目されている執筆者の作品を扱ったり、「ズームアップ」というコラムや「表現編」という表現を扱う内容が生徒の興味・関心を引くものとなっております、ディベートですとかスピーチなどの話し合い活動に活用しやすいという特色がございます。また、「古典B」では、文法表が充実をしております、まとめ方が非常によく、学習がしやすいという特色がございます。

来年度は、2年生におきましても、1年生の変更に引き続いて、数研出版の教科書を選定いたしました。

続きまして、地理歴史です。

4ページになります。通し番号9、1年生で使用する「世界史A」でございますが、実教出版から帝国書院の教科書に変更いたします。

この教科書は、他の教科書よりも大判、大き目のサイズになっておりまして、地図帳や資料集と同じサイズでありますために、資料がとても見やすく、また、他の教科書より記述も詳しく、用語の記載も多いという特徴がございます。本校独自に取り組んでおります教科横断的なクロスカリキュラムと呼んでいる授業がありますけれども、そういった授業のために、発展学習に適した教科書ともなっております。

また、「日本列島の中の世界史」というページですとか、コラムの中に「世界史の中の日本」といったような記述もございまして、日本史との関連も多く使われております。生徒の興味・関心を引き出すことができる教科書となっております。

続きまして、公民ですけれども、これは変更ございません。

数学、こちらの変更はございません。

理科についても変更はございません。

保健体育、こちらについても変更はございません。

外国語です。

7ページになります。通し番号43番、3年生で使用する「コミュニケーション英語Ⅲ」の教科書を、啓林館から第一学習社に変更いたします。1、2年生は既に第一学習社のものに変更しておりますが、第一学習社の教科書は、取り上げられている題材が多岐にわたっておりますので、教科横断的な授業である、先ほど申し上げたクロスカリキュラムやコミュニケーション活動への応用に適した教科書となっております。

また、1つの大きな特色として、本文が見開き2ページに、ぱっと見て本文が見えるようになっておりまして、全体の構成を意識しながら読んでいくことができることから、長文読解の力をつけるのに最適な教科書となっております。

以上、千葉高校における令和2年度使用の教科用図書についてご説明いたしました。よろしく申し上げます。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

中野委員 先ほど理系で、特に科学の思考力・判断力・表現力の育成に力を入れたいということでしたけれども、教えている方も、当然、教材を考えたいと思うでしょうし、また、議論していただきたいと思います。今後も、よろしく申し上げます。

それから、やはり理系だと思って入ってきて、必ずしもそうではなく、後で文系だったと思うような方もいることと思います

ので、ぜひとも力を入れて指導していただきたいと思います。こちらのほうもぜひよろしく願いいたします。要望だけです。

磯野教育長 ほかに、ご質問もないようですので、議案第32号「令和2年度使用千葉市立千葉高等学校用教科用図書の採択について」を、原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決といたします。

議案第33号 令和2年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について

磯野教育長 稲毛高等学校長、説明をお願いします。

佐藤稲毛高等学校長 議案第33号「令和2年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により、議決を求めるものであります。

稲毛高校の校長、佐藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、お手元の配付資料をご覧ください。

まず、最初のページでございます、1番「本校の実態及び重点目標」ですけれども、本校は「豊かな国際感覚を身に付けたグローバル・リーダーの育成」を教育目標に掲げておりまして、次の3点を柱とした教育を実践しております。

1点目が、自分たちの伝統・文化を理解する姿勢を持つ。2点目が、外国の伝統・文化を理解する姿勢を持つ。3点目が、自らの考えや意見を発信し、具体的に行動することができる力を養う。

これらを受けまして、「重点目標」としては、国際理解教育の推進に当たりまして、英語力を身につけさせるだけではなくて、幅広い教養や思考力、判断力、表現力、そして主体性を持って学ぶ態度を育てること、さらには本年度から文科省の指定を受けました地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)を受けまして、課題発見力、課題解決力の基礎となる探究する力を身につけさせること、これらを意識して教科書選定を行っております。

続きまして、2の「本校に求められる教科用図書の特色」といたしましては、普通科では、各教科とも、データ、図、写真等がバランスよく配列されており、言語活動へのアプローチも充実した内容となっていること。また、英語では、さまざまな分野の話

題がバランスよく取り上げられ、語彙や文法も充実したもの、こちらはネイティブ講師とのチームティーチングにおいて、発信活動がしやすい内容であったり、速読、精読等、目的に合わせた学習に適していること。最終的には、英語の4技能の能力の伸長を測定することに適した構成となっているものでございます。

さらに、国際教養科のほうには、それに加えて、専門科目の特色を生かすことができる内容、すなわち特に「総合英語」や「英語表現」において、ディスカッションやディベート等の高度な表現活動がしやすい題材、表現を取り扱っているものとしてございます。

3点目の「教科用図書の選定基準」につきましては、記載のとおりでございます。

これまでは、多くの知識を得られる詳しい教科書を選んでいた傾向がございましたけれども、ここ数年、流れを多少変えまして、グループワークやペアワークの授業で使いやすいもの、授業だけではなくて家庭学習に使いやすいもの、また、思考力や表現力を高める工夫のあるものなどの観点から選定する傾向を強めております。

また、現行の学習指導要領が平成25年度から始まったわけですが、3年ほど前から、各教科書会社が改訂版を出しております。その改訂版が、本校の教育により合致する場面が多くなってまいりましたので、一昨年度に、慎重に選定をした結果、多くの教科書の選定をし直しました。今年度は、ほぼ昨年度と同様でございます。

それでは、選定理由を説明いたしますが、来年度につきましても、今年度と全て教科書は同じものを選定してございますので、補足の必要なものに絞って説明をさせていただきます。

それでは、まず、3ページの国語をご覧ください。

2行目にございます「現代文B」です。こちらは、平成29年度の3年生までは、第一学習社の教科書を使用しておりましたが、平成30年度の2年生から筑摩書房の「精選現代文B」の改訂版に変更いたしました。そして、その学年はそのまま3年生で同じ教科書を使用するように変更しております。新旧の作品が大変バランスよく配置されており、グループやペアで議論するときに適した問いが数多く載ってございまして、言語活動が行いやすい教科書となっております。

その次の行の「古典B」ですけれども、こちらは大修館書店の「古典A」の「物語選」の改訂版が発行されまして、平成30年度に2年生では「古典A 物語選」改訂版に変更いたしました。この改訂版は、多くの漢文の基礎・基本を定着させることに重きを置いており、ジャンルや時代のバランスが大変よい教科書となっております。

その後の地理歴史から公民、数学、理科、保健体育等については、変更がございません。

5ページになります芸術の音楽、こちらのほうをご覧ください。音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにつきましては、平成30年度までの教育出版から、今年度から教育芸術社のものに変更いたしました。2社とも改訂版になっておりますけれども、それらを比較した結果、教育芸術社の方が、主体的に学習ができやすいように楽譜に詳しい解説が書かれており、イラストや写真を使って、視覚的に理解しやすい構成になっております。

続いて、6ページの外国語をご覧ください。

4行目、5行目にございます英語表現ⅠとⅡですけれども、年次進行で啓林館からいわずな書店に変更してまいりまして、今年度、3学年そろって使用するようになっております。いわずな書店は、外国人の講師の評価で、表現が大変自然であり、4技能を身につけるに適した教科書であるという評価を受けておりました。ネイティブとのチームティーチングの授業において、プレゼンテーションですとかディスカッション、ディベートといった高度なコミュニケーション活動を行いやすいという評価がありまして、そのような理由からこの教科書を選定してございます。

家庭科と情報科については、特にございません。

7ページの専門教科、英語をご覧くださいと思います。

こちら、国際教養科のものですけれども、専門教科の教科書は、その専用のもので出版されておられません。学習指導要領によりまして、普通教科の英語の内容に加えて、必要に応じて内容を発展・拡充させて取り扱うこととなっております。したがって、普通教科の英語の教科書を使用しつつ、発展的な内容を加えて授業を行っているということでございます。

以上、稲毛高校の教科書選定等につきまして説明を終わらせていただきます。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 1点、少し本筋と関係ない部分で、教科について質問させていただきたいのですが、芸術の中で工芸という科目がありますが、これは珍しい科目なのかなというふうに思います。どのくらいの生徒が選択をしているのかということをお聞かせいただけますでしょうか。

佐藤稲毛高等学校長 本校の芸術科目は、音楽、美術、書道、工芸の4科目ございますけれども、そのうち工芸を選択している生徒は1年生で82人、2年生で71人、3年生が2人となっております。

320人の学年ですけれども、1年次の希望者が実は120人ほどおまして、大変希望は多いのですけれども、調整して、大体80人程度に抑えております。2年生になりますと国際教養科のほうから芸術の選択が無くなりますので、人員制限で71人となっております。また、3年生では、実際に工芸を選択している生徒には理系の希望者が多いものですから、理系となりますと、もともと芸術の選択がないということで非常に少なくなっております。

和田委員 工芸の教員については、工芸の専科の教員が教えているということでしょうか。何かほかの科目と兼ねているということはありませんか。

佐藤稲毛高等学校長 本校で工芸を担当している教員は、もともとは技術の教員ですけれども、工芸のほうも大変詳しいということで担当しています。また、本校は附属中学校を併設しておりますので、附属中学校の技術の授業も担当しています。

和田委員 続いて、もう1点よろしいでしょうか。

英語に関してなのですが、毎回質問させていただいて恐縮なのですが、いいずなという出版社の教科書は特色がとてもあるものだというふうに解釈しております。先ほどご説明でも、ネイティブの教師からの評価が非常に高いというお話でしたが、学ぶ生徒の側からの学びやすさという点では、どのような声があるのかということをお聞かせいただければと思います。

佐藤稲毛高等学校長 本校の生徒も大変英語の能力が高い生徒が多くございますけれども、生徒にとっても大変学びやすいという声が上がっておりまして、特に教える側から使いやすいということは、生徒に対しても大変講義がしやすいということになりますし、そういったところから深い学びにつながっていくということで、生徒からも大変好評というふうに理解いたします。

磯野教育長 では、ほかにご質問もないようですので、議案第33号「令和2年度使用千葉市立稲毛高等学校用教科用図書の採択について」を、原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決といたします。

議案第34号 令和2年度使用千葉市立中学校用教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）の採択について

磯野教育長 教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長から説明をお願いします。

神崎教育次長 議案第34号は、「令和2年度使用千葉市立中学校用教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）の採択」について、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により、議決を求めるものであります。

「令和2年度使用中学校用（特別の教科 道徳を除く）の教科用図書」についてですが、本年6月26日の教育委員会会議第6回定例会で採択方針が決定されております。

今回、道徳以外の中学校用教科用図書については、平成30年度に検定本の申請がなく、その後も大きな変更がなかったことから、文部科学省からの通知を踏まえ、平成27年度採択時の調査研究報告書を活用し、中学校教科書目録に登載されている教科書のうちから採択を行うこととなっております。

教科用図書選定委員会といたしましては、前回採択された教科書について大きな内容の変更がなく、また、これまでの使用に際し大きな問題等がないことから、現行教科書を来年度も継続して使用したいと考えております。

説明は以上でございます。ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

磯野教育長 ご意見、ご質問等ございませんようですので、議案第34号「令和2年度使用千葉市立中学校用教科用図書（特別の教科 道徳を除く。）の採択」を、原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決といたします。

議案第35号 令和2年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について

磯野教育長 教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長からその概略の報告をお願いします。その後、調査結果についての説明を教育指導課長よりお願いします。

神崎教育次長 議案第35号は、「令和2年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択」について、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により、議決を求めるものでございます。

学校教育法附則第9条の規定による教科用図書については、本年5月27日の教育委員会会議第5回定例会において決定された「令和2年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針」に基づき、5月30日に第1回千葉市教科用図書選定委員会を開催して、教科用図書専門調査員会を設置するとともに、専門調査員を任命し、教科用図書選定に係る調査研究等を行ったところでございます。

また、その調査研究の報告をもとに、7月19日に第2回千葉市教科用図書選定委員会を開催し「令和2年度使用教科用図書調査研究報告書」を取りまとめました。

報告書の内容につきましては、教育指導課長よりご説明申し上げます。

鶴岡教育指導課長 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の教科用図書につきましては、文部科学省検定済教科用図書及び文部科学省著作教科用図書の当該学年用を使用することが原則となっておりますが、児童生徒の実態により適切でない場合は、学校教育法附則第9条の規定により、一般図書を選定することができます。

報告書2ページから5ページの教科用図書につきましては、千葉市立の特別支援学校及び特別支援学級の児童生徒の該当者はありません。通常学級の中に拡大教科用図書を使用している児童生徒は、小学校で13人おります。

千葉市立の特別支援学校及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の多くは、知的障害があります。児童生徒一人一人の発達段階が様々であることと障害の特性も多様であることから、できるだけ児童生徒の実態に対応できるようにするため、文部科学省検定済教科用図書、文部科学省著作の特別支援学校用教科用図書と併せ

て、学校教育法附則第9条の規定による一般図書を採択していただきたいと考えます。

学校教育法附則第9条の規定による一般図書の観点について申し上げます。報告書の9ページをご覧ください。

「1、内容について、2、組織・配列について、3、表現について、4、造本について」を、それぞれの観点から報告書を作成いたしました。

10ページから13ページをご覧ください。

県教育委員会から示された一般図書の一覧です。備考欄の※印は、本年度新たに県から示された図書です。千葉市の欄の印につきましては、調査員会が採択を希望する図書です。○印は昨年度に引き続き、◎は今年度新たに希望する図書です。

では、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書、合計133冊について報告いたします。

初めに、国語について報告いたします。

県教育委員会から44冊示されましたが、そのうち34冊を選びました。全て昨年度から継続して選んだ図書です。内容が適切で、指導の継続性や児童生徒に親しまれている図書が多いためです。

続いて、算数・数学について報告いたします。

県教育委員会から27冊が示されましたが、そのうち17冊を選びました。全て昨年度から継続して選んだ図書です。算数・数学につきましても新規本はございません。

続いて、生活・社会について報告いたします。

12ページをご覧ください。

県教育委員会から34冊が示されましたが、そのうち28冊を選びました。昨年度から継続して選んだ図書は26冊です。内容が適切で、指導の継続性や児童生徒に親しまれている図書が多いためです。新規に選んだ図書は、今回、県教育委員会で新たに選定された図書2冊です。

40ページをご覧ください。

No. 33の「てあそびうたえほん」は、左側に絵本、右側にICボードがあることで、歌に合わせて絵本のページを開き、手遊びをすることができ、選曲ボタンには絵本と同じ絵が描かれていて、わかりやすくなっています。

そして、41ページのNo. 34「友だち関係(気持ちの伝え方)」

も今年度、新たに県教育委員会で選定された図書です。内容は、コミュニケーションにおけるよりよい気持ちの伝え方が学べるようになっています。日常生活の中で経験する場面が多く取り上げられ、漫画で表現されているので、わかりやすく、興味・関心を持ちやすいものとなっています。

生活・社会については以上です。

続いて、職業・家庭について報告いたします。

13ページをご覧ください。一般図書一覧に戻ります。

県教育委員会から22冊示されましたが、そのうち18冊を選びました。昨年度から継続して選んだ図書は、17冊です。新規に選んだ図書は、今回、県教育委員会で選定された図書1冊です。

報告書の47ページをご覧ください。

「くらしに役立つ家庭」です。内容は、家庭生活から社会生活まで幅広く取り扱われていて、実際の場面を写真やイラストを入れて、視覚的にわかりやすくなっています。また、題材ごとにエクササイズやコラムがあり、学習内容の振り返りができるなど、扱いやすくなっています。

職業・家庭については以上です。

最後に、外国語について報告いたします。

県教育委員会から6冊示されましたが、そのうち全てを選びました。全て昨年度から継続して選んだ図書です。内容が適切で、指導の継続性や児童生徒に親しまれている図書が多いためです。

外国語については以上です。

以上で全ての報告を終わります。

磯野教育長 では、審議に移りますが、質問等を含め何かございますか。

磯野教育長 ご意見、ご質問等ございませんようですので、議案第35号「令和2年度使用 学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択について」を、原案どおり可決したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、原案どおり可決といたします。

議案第36号 令和2年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について

磯野教育長 教科用図書選定委員会の調査結果報告について、選定委員会委員長である教育次長から概略の報告をお願いします。

神崎教育次長 議案第36号についてご説明申し上げます。

議案第36号は、「令和2年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択」について、千葉市教育委員会組織規則第8条第10号の規定により議決を求めるものであります。

今回、小学校用教科用図書は、別添資料として配布しております「小学校用教科書目録（平成32年度使用）」に登載されている教科書のうちから採択を行うものでございます。

小学校用教科用図書に関する経緯といたしましては、本年5月27日の教育委員会会議第5回定例会において決定されました「令和2年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択方針」に基づき、附則第9条図書と同様に、教科用図書専門調査員会を設置するなどして、教科用図書選定に係る調査研究等を行い、千葉市教科用図書選定委員会として「令和2年度使用教科用図書調査研究報告書」を取りまとめました。

報告書の内容につきましては、後ほど教育指導課長よりご説明いたします。

磯野教育長 教科ごとの調査研究の報告に先だち、決定の方法についてお諮りいたします。

全ての教科用図書につき、投票により、これを決定したいと考えます。

なお、投票の順番は、文部科学省作成の教科書目録に記載されている種目により、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳とします。

投票の方法ですが、各委員に配布いたします投票用紙に、無記名で、採択すべきと考える教科用図書の1つに「○」を記入し、投票してください。

本日の出席者は5名ですので、過半数の3票を獲得した教科用図書を採択することと決定したいと考えます。過半数に達しなかった場合は、改めて意見交換等協議の上、得票のあった発行者によって、3回目まで繰り返し投票を行います。ただし、過半数に達しないものの、2者が2票ずつ得票をしている場合には、その2者によって再度投票を行うこととします。3回の投票により決しない場合は、その際に、決定方法について再度協議といたします。以上、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 小学校用「国語」に係る選定結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「国語科」について報告します。

調査報告書の1ページをご覧ください。

最初に、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における国語科の目標は、「言葉における見方・考え方をはたらかせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」とあり、3つの目標が具体的に挙げられております。

次に、本市の児童の学力については、全体的に学力が低下傾向にあります。特に、「読むこと」では、心情が伝わるように工夫して音読することや、中心となる文や段落を捉えて説明的な文章を正しく読むことに課題があります。また「話すこと・聞くこと」では、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、工夫して話すことに課題があります。

従って、児童の関心意欲を高め、主体的・継続的に課題を追求していけるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

次に、教科用図書を選定するための、国語の観点についてですが、2ページに掲載をしましたので、ご覧ください。

続きまして、調査研究報告書について、調査結果を具体的にご説明いたします。

3ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(3)では、言葉を意識して学ぶことを重視し、国語科で育む資質・能力を「言葉の力」としてわかりやすく提示しています。例えば、2年下の8ページと22ページのように、各単元で身に付けさせたい力を単元冒頭と単元末に示しています。また、3年上の94ページに見られるように、説明文の系統である「読み比べ・表現の工夫」では、実用的なテキストを複数読み比べます。新しい学力である「書き手の目的や意図に応じた表現」について考えることができ、確かな学力を育む題材の配列に優れています。

「学校図書」は、「新しい学習指導要領への対応」(3)についてですが、2年下の38ページや3年下の6ページでは、言葉か

ら想像したことを表現したり、情報を感性で捉え、自由な発想で事象と言葉を結び付けたりすることで、言葉への見方や考え方を養うよう工夫されています。

また、「内容」(3)についてですが、4年上の124ページなどのように、さまざまな今日的課題に考慮して、地域や社会とつながりをもちながら学ぶことのできる題材が設定されている点が優れています。

続いて、「教育出版」は、「新しい学習指導要領への対応」の(1)5年上の28ページをご覧ください。

「読む」単元の教材の後ろには、「確かめよう」→「考えよう」「深めよう」→「広げよう」の4つのステップの学習過程が具体的に明記されています。

「内容」(1)について、4年上の74ページでは、日本の伝統文化でもある「落語」が教材として詳しく取り上げられています。児童が興味関心を持ち、楽しく学習することができるような言語活動や題材・教材が充実しています。また、2年上の126ページでは、プログラミング的思考を促す教材が配列されています。

読書活動を促す教材に関しましては、1年下の82ページ、「おはなしどうぶつえんをつくって、本をしょうかいしよう」などにあるように、各学年の発達段階に応じた読書に関する単元が系統的に配列されています。

最後ですが、「光村図書」は、まず、「新しい学習指導要領への対応」(1)の項目につきましては、5年の146ページをご覧ください。

こちらは、学習のてびきが4つのステップで記されており、学習過程を示すバーとなっております。新学習指導要領の改訂の要点の一つである「学習過程の明確化」に則って位置付けられており、大変よく配慮されております。

次は、「内容」(1)について、6年の103ページからの「作品の世界を捉え、自分の考えを書こう」では、宮沢賢治の世界を味わうために、物語文「やまなし」に加え、資料として「イーハトーブの夢」という伝記を載せています。この2つの文章を読むことで、児童は作品をより深く味わうことができます。複数の情報を関連させて読む力が、全国学力・学習状況調査で毎年重視されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、学校図書と教育出版が、全学年B5判の分冊になります。東京書籍と光村図書が、4年生以下はB5判の分冊、5、6年生は合本となっております。

以上で国語科の報告を終わりにします。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 国語という教科は、言語能力を育成する中心的な役割を担う教科だと思いますので、そのことも意識しながら、私たちも教科書を全者、全学年分、読み込んでまいりました。正直言いまして、とても迷っておりまして、冒頭こんなことを申し上げるのは何なのですけれども、今に至るまで決心がつきません。

そこで、少し質問事項が多くなるのですが、幾つかコメントを伺わせていただきたいと思います。

まず、2点関連するので、まとめてお尋ねしたいのですが、千葉市の児童の課題として、先ほどご説明いただきましたのは、まず読むこと、そして話すこと聞くことが挙げられておりますが、これまでは長いこと、書くことにも課題があると言われてきました。一度のテストでは測れないということもあると思いますし、先ほど申し上げたように、言語能力を育成する中心的な役割を担う教科ということを見ると、やはり総合的な力を身につける必要があると思います。

それを考慮すると、教材や学習の導き方に偏りのない教科用図書が望ましいと考えます。バランスという点で、各者優れている点を、まず1点目として教えていただきたいと思います。

そして、これと関連するのですが、子どもたちの意欲があまり芳しくないというようなご説明もございました。子どもたちに身につけさせたい力と教材の特性がマッチしていて、さらに子どもたちの意欲をかき立てるような、さらに、そして無理なく言語活動に取り組めるということが肝要だと思いますが、まず、この身につけさせたい力と教材の特性についての整合性、そして子どもたちの意欲をかき立てるという点で、各者優れている点、特徴的な点があればご説明をお願いしたいと思います。まず2点、お願いいたします。

石塚指導主事 4者とも新学習指導要領に対応した学習が配列されており、それぞれよい点が見られます。

光村図書では、学習を通し、言葉による見方・考え方を働かせながら、物語や説明文をどのように読めばよいか、手引の中に

具体的に示されているという良さがあります。振り返りの内容につきましても、学習を通し、何が身についたか問うことになっており、新学習指導要領に合致しているため、これから千葉市の児童につけさせたい国語の力を伸ばすことが期待できるものと報告を受けています。

また、教育出版は、多様な言語活動が設定されていることから、児童が興味・関心を持ち、対話を重視しながら表現する学習方法を配列しています。児童が国語の学習を楽しんでいると感じながら学ぶことができる教科書であると思われます。

東京書籍は、非常に見やすく、記述量も適当です。巻頭には、つけたい力、学習の進め方が明記されており、児童の主体的な学びを促すものと伺っております。

学校図書は、巻頭に前学年の学習を振り返り、該当学年でつけたい力学習の進め方、巻末には振り返りが載っており、児童が見通しをもって学習を進めたり、振り返りができたりするよう配慮されていると報告を受けております。

各者の特徴は以上になります。

和田委員 子どもたちの意欲をかき立てるような教材を取り上げているという点では、また、学びの導き方という点では、何か特徴的なことがあれば教えていただけますか。

石塚指導主事 どの教科書も、児童の興味を引くよう工夫されております。

特に、光村図書は、各教材に大変魅力があり、子どもの興味を引く力のある教材が多いという報告がなっております。教育出版は、対話を楽しくできるような、話すこと聞くことの意欲をかき立てるような教材が配列をされているということが特徴となっていると伺っております。

鶴岡教育指導課長 意欲ということは、子どもたちがやる気のあるということだと考えます。それは教育現場の中で様々な要素があるかと思うのですが、意欲につなぐ見通しを持たせることがとても大事なのではないかと考えます。

例えば、光村図書につきましては、「とらえよう、深めよう、まとめよう、広げよう」という学習の流れがしっかり明確に記されており、教育出版では、「確かめよう、考えよう、深めよう、広げよう」という学習の流れを見通しを持って、明確に子どもたちに示すことによって、先を見通し、いわゆる意欲につながるような、工夫がなされているかと考えます。報告もそのようにあが

っております。

和田委員 3点目なのですが、新しい学習指導要領で、これまでも、もちろん重点を置かれていたけれども、さらにこの分野は重点を置きなさいというものとして、「情報の扱い」それから「語彙指導の充実・改善」「読書」この3点があげられるかと思うのですが、この3点について、各者特徴的なことがあれば教えていただけますでしょうか。

石塚指導主事 情報の扱いに関する児童の育成では、光村図書と東京書籍が優れている報告が上がっております。光村は、言語活動に応じて、意図的に情報の扱い方の育成を図ったコラムがあります。東京書籍は、情報リテラシーなど今日的な課題に対する教材が配列されていると報告されています。

語彙を増やす内容で読書につなげる内容といった点では、どの教科書も工夫が見られます。ページ数の多いのは教育出版です。掲載図書が多いのは学校図書。内容が充実していて、語彙を増やすことや、学習にすぐ生かせるのは光村図書です。言葉の宝箱が充実しています。

和田委員 私も、光村図書の言葉の宝箱がとてもすばらしいと思っておりまして、例えば形容詞や名詞など単純なものではなくて、本当に日本語の豊かさを感じられるようなものが巻末に載っているので、これを子どもたちに見せてくれると、豊かな言語活動につながるのかなと感じました。

あと2点、今までご回答いただいていた部分もあるのですが、まとめてお伺いしたいと思います。

説明的な文章の内容を正しく読み取ることに課題があるというふうに言われていますけれども、説明文の扱い方について、各者特徴的なことがあれば教えてください。

石塚指導主事 教育出版は、短い説明文で読み方を学んだ後、長い説明文で読み方を活用し、正しく読めるようにしています。単元の扉にその単元のつきたい力を明記しているのが東京書籍と光村図書です。どちらも、子どもたちが見通しを持って読む力をつけ、それを生かして次の活動につなげています。光村図書は、問いの文と答えの文を押さえながら読むことが、どの学年もしっかり示されているため、6年間かけてしっかりと学ぶことができると報告されています。

和田委員 最後に、もう1点なのですが、単元ごとの振り返りが、先ほ

どもご説明いただいておりますけれども、各者それぞれだと思うのですが、比較して特徴的なことがあれば教えていただけますでしょうか。子どもたちの学びやすさを含めてお願いいたします。

石塚指導主事 光村図書は、振り返りの観点が新しい学習指導要領で設定された資質・能力の三つの柱に合致しており、單元ごとに子どもに身につけさせたい力が明確です。どの教科書も、振り返りの言葉があるのですが、身につけたい力が明確なのは東京書籍であるということが話し合われておりました。

鶴岡教育指導課長 先ほど、子どもたちの意欲ということで2者を紹介させていただいたのですが、学校図書や東京書籍につきましても、三段階のステップを踏まえて見通しを持って、意欲につなげるようなところもございます。この点を改めてつけ加えさせていただきます。

小西委員 一点質問なのですが、読書量ですが、4年前は千葉市、読書量は全国的に見て、トップクラスだったかと思うのですが、現在の子どもたちの読書量というのはどのような状況でしょうか。

鶴岡教育指導課長 継続して千葉市の子どもたちの読書量は、全国に比べると、かなり高いほうだと思います。データでお示しいたしますと、学校図書館の指導員の研修会がございまして、その時に使った資料によりますと、千葉市は4週間、全国は1か月、若干日は違うのですが、ほぼ同じと考えると、千葉市の子どもたちは1人当たり平均読書数は14.4冊、約15冊、全国は9.8冊、約10冊ということで、これは全体ですので、かなり大きな違いがあるかなと思います。

中野委員 特徴的だとしたら、地域との関係ですね。そのようなことも学んでいくという過程があると思うのですが、幾つか挙げていただいた中で、地域との関係について勉強するのにふさわしい内容などがありましたら教えてください。

石塚指導主事 学校図書は、地域・社会とつながりを持ちながら学べる教材を使っています。教育出版は、地域に目を向け、地域を大切に思う気持ちを育てている内容になっております。

中野委員 どれもみんな内容がいいので、例えば千葉県のことを扱っている教科書等、それが1つの特徴になるかなと思うのですが、ありますでしょうか。すぐ思いつかなければ結構です。

磯野教育長 そもそも文科省で、暑さ対策で教科書の分冊が求められている中で、置き勉等を認めている状況下で、今回、2者が合本とい

う形になったこと、分冊ということが出てきました。これはこの後全部の教科、社会科も含めて、分冊か合本かということが問われてくると思うのですけれども、この点について1点、1つ方向性としてはあるのかなという感じがします。

それと、小学校と中学校のつなぎということも考えていかなければいけない状況があるので、今、それぞれの委員から質問された中で、観点としては、私はやはり学習の見通しと振り返りの位置づけと、主体的な学びが可能な教科書は何かというふうにならなくて読んでいたのですけれども、やはりこの調査報告書が上がってきた中で、私の立場として非常に苦しかったのが、児童の実態に合わせた適切な指導方法の工夫、改善が必要であると書かれてしまうと、やはり私どもの責任を強く感じることもありますし、今後、やはりこれに関しては、全教科でも関係しますけれども、この教科書を読み込んだ後の指導計画の作り方がいかに重要になるかということ、改めて認識させていただきました。

ですから、若い教員が増えているから指導力が落ちたということではなくて、今、学力向上アクションプランを作っているわけですから、このようなところを全部に反映していかなければいけないと考えます。

私もやはり、特に読んだ中で、やはり言語活動に課題があるという認識でしたけれども、そうやって考えると、文学作品に優れている光村は、その辺については大きなメリットがあるという思いでありました。

一方、児童が関心を持つ多様な言語活動を取り入れるという点では、教育出版にも、その点についてはやはりメリットがあるという考え方がありましたので、最後は、和田委員もおっしゃいましたけれども、これまで私も教科書採択に関わってきましたけれども、教育という課題が、どのように解決していったらいいのかということ、ずっと悩み続けたのですけれども、なかなかこれに対しては、今回の改訂の中には書かれてなかったもので、ここは、私としては腑に落ちないというか、疑問に残ることです。

そういった中で、それぞれが4ステップを皆さんしっかり捉えて、今回の教科書を作成されていますので、以上挙げた2者のどちらかにしたいという気持ちでおります。

和田委員 私も教育長と同じで、光村か教育出版かと考えております。

やはり、光村出版は非常に魅力的な教材が多くて、言葉が豊か

であるということ、それから振り返りの方法もわかりやすいということに魅力を感じています。それから、教育出版に関しては、対話的な学びができるということ、それから振り返りに関してもかなり突っ込んだ系統立った書き方で、子どもたちにアプローチしてくれるのではないかと思います。

1つ気になっているのが、千葉市の子どもたちの学力が低下傾向にあるというご説明をいただきました。教育出版の教科書をこれまで、30年くらいにわたって千葉市は採択して使ってきていますが、教育出版の教科書をこれまでずっと使い続けてきて学力が低下してきたということは、それはこの教科書で教員として教えることに何か限界があるのか、そうであれば、ここで同じように迷っているのであれば、光村出版にチャレンジする転機なのか、そこで気持ちが決められずにいます。

現場の教員からしてみれば、教育出版でこのままいったほうが指導計画を作りやすいのか、それともここで思い切って新しい教科書にして、若い教員も増えていきますし、新たな気持ちでチャレンジしたほうがいいのか、そのあたりも率直な意見を、言いにくいと思いますが、お聞かせいただければと。

鶴岡教育指導課長 学力と教科用図書というのは、必ずしもイコールだとは思っていません。その教科書がゆえに上がった、下がったというのは一概に言えないことでもあります。例えば全国や県と比べて、プラス1だ、ゼロだというだけで、単に学力そのものが上昇又は低下傾向にあるとは言い難いと考えます。他の教科も同じであると思っております。

中野委員 私も、教科書によって学力が下がるということは、内容を見てもあり得ないと思うのですけれども、それはあえて教科書を変えるという理由が教科書を見ている限りではわかりませんでした。私はこのままだも、今までどおり教育出版がいいのではないかと思います。

小西委員 私も光村図書と教育出版で非常に悩んでいまして、両方とも、より子どもたちが主体的に考えられるよう非常に配慮されていると思います。

特に教育出版は、子どもたちが、各学年ごとに楽しく読書活動に入っていける工夫であったり、確かめ考え深め広めるという思考過程について、子どもたちが理解しやすくうまくまとまっていると思えました。

一方で、光村図書のほうは、子どもたちが筋道を立てて考えることというところに、非常に工夫されています。話すことも書くことも重要だとは思いますが、書く前提として頭の中で整理して伝えたい言葉がまとまらなければ、それは書けないわけです。千葉市の子ども達は、筋道を立てて考えていくということに課題があるようですけれども、そのような子たちにとっては、光村図書の教科書に載っている思考ツールをたくさん提供してあげるといことは非常に役立つのではないかと考えています。

光村図書さんの、言葉の宝箱がとてもよいなと思ひまして、最近の子どもたちは、「ヤバイ」など、いろいろな感情を同じ言葉で表してしまうような子たちが増えており、豊かで細やかな感情表現というものを使いこなせていないと感じることが多々あるので、言葉の宝箱をぜひ子どもたちに読んでもらいたいと思っています。そういった意味で私も光村図書がよいと考えています。

千葉委員 僕も光村図書さんのを読ませていただいて、少し感じたのですけれども、教科書を変える、変えないというのも、1つ、学校などもその時代時代で、行政が国の方針で子どもたちの教育が変わってしまった時に、それを冒険としてやってみた時、だめだった時というのものもあるわけです。でも、そうなった時に、教科書を変えて、また、先生が新しく指導要領などを練った時に、また違うことが見えてくるのではないのかなと。ですので、僕はここであえて変えるというのも、1ついいのではないのかなと思ひました。

磯野教育長 参考まででよいのですが、私が聞きました分冊と合本の件について、もし見解があればお示しください。

鶴岡教育指導課長 報告が上がっている分でお話しさせていただきますと、合本につきましても、常に振り返りができるというメリットがあると。いつ、いかなる時も何かの時にいろいろなものが振り返りができるというメリットがあります。分冊につきましても、先ほどおっしゃったように、子どもたちの負担軽減ということでの声があがっております。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「国語」教科用図書の決定をいたします。

はじめに、発行者の読み上げをさせていただきます。読み上げ

につきましては、文部科学省作成の教科書目録に記載されている発行者の番号順で行います。以降の教科につきましても同様とさせていただきます。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「国語」の発行者は4者、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」及び「光村図書出版」です。この4者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 それでは、ただいまの投票結果について報告いたします。

教育出版、2票、光村図書出版、3票。光村図書出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「国語」の教科用図書は、「光村図書出版」と決定いたしました。

《書写》

磯野教育長 小学校用教科用図書「書写」に係る調査結果について、教育指導課長、説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「国語科書写」について報告します。

報告書の5ページになります。

最初に、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における国語科書写の目標は、文字を正しく整えて書くことができるようにすることと書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てることの2点であります。そのため、「硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する」ことが大切であると明記されております。

本市の児童の学力については、漢字、言葉等の意味や使い方の正しい理解が課題となっています。また、書写力については、文字に対する意識は比較的高いものの、姿勢や執筆についてはやや課題がある傾向にあります。

従って、書写の基礎・基本を重視し、系統的かつ効率的に文字学習が行え、書写力を確実に身につけるといった特色を有する教

科用図書を選定する必要があるものと考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点ですが、6 ページに掲載いたしましたので、ご覧ください。

続きまして、調査研究報告書について、調査結果を具体的にご説明いたします。

まず、「東京書籍」について述べます。

「新しい学習指導要領への対応」(2) では、3 年の 26、27 ページ、生活に広げよう「実験したことを記録しよう」で、理科に広げながら横書きのポイントを明示し、書いて伝える活動との関連がよく工夫されています。

「内容」(2) では、5 年の 18、19 ページの「ひらがな」で、連続写真や結びの図の強調により、基礎的・基本的な事項が確実に習得できるよう工夫されています。

次に、「学校図書」について述べます。

「新しい学習指導要領への対応」(1) では、1 年の 6 ページから 9 ページ、「学しゅうのすすめ方」で、学び方を学ばせることで主体的に取り組めるよう工夫されています。

「内容」(3) では、「書写の資料館」が充実しており、許容範囲の扱いや都道府県名を漢字で書かせる活動を通して、日常生活や将来まで役立つ教材が、幅広く取り上げられております。

続きまして、「教育出版」について述べます。

「新しい学習指導要領への対応」(1) では、4 年の 16、17 ページの「花」の学習で、4 年の導入教材としての位置づけが、3 年の学習の総復習である「点画の筆使い」として、明確に位置づけられております。

さらに、「内容」(4) では、5 年の 30 から 33 ページの「委員会のポスター」で、書写で学んだことを学校生活の場面で具体的に生かす活動が提示されており、生きて働く書写力の育成が具現化されています。

続きまして、「光村図書」について述べます。

「新しい学習指導要領への対応」(2) では、4 年の 24、25 ページ「リーフレットの書き方」で、国語や社会科との関連が図られており、日常生活や他教科にも生きて働く書写力の習得に配慮されています。

さらに、「内容」(3) では、1 年の「しゅしゃたいそう」が、指先等の感覚が未熟な小学校入門期の児童に対して、幼保との接

続という意味で新しい試みを示していると言えます。

最後に、「日本文教出版」です。

2年の1ページ「この教科書の使い方」として、考え、たしかめ、いかすという3段階で、学び方をわかりやすく示しており、児童が見通しをもって学べるように工夫されています。

また、造本の(2)では、1、2年の41ページに「みずがきシートでれんしゅうしよう」というページがあり、何回使用してもよれないしっかり感があり、児童にとってはより使いやすい配慮がされています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍がA B判、他社は全てB 5判でやっています。

以上で国語科書写の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 2点、質問お願いいたします。

1点目は、先ほどご説明ありましたが、水書きシートについて伺います。筆の使い勝手はどのようでしょうか。もし、各者に特徴的なところがありましたらお願いします。あと、今までに無かったものだと思うので、授業の中で実際にどのような使い方が想定できるのかということも教えてください。

石塚指導主事 全て試してみたところ、学校図書以外の全ての教科書にあるのですが、どこも書きぶり、書き方、遜色ございませんでした。水の渴き具合、終わった後の汚れなども全て皆さんきれいで遜色はございません。ただ、シートに練習する言葉が載っているのが、教育出版と光村図書です。1年生で初めて書く言葉である「くつ」という言葉が載っているのは教育出版でした。

和田委員 授業の中で、実際にどのように使うことが想定されるかということをお教えいただけますか。筆は別に購入することになりますか。

石塚指導主事 筆は、購入することになります。絵の具の筆でよいということになっておりますが、子どもたち筆圧がとても強く書く傾向がございますので、強弱を付け易い、ずっと力を入れていると折れて書けなくなってしまうので、強弱を付けてしっかりと字を書くのに、水書き用筆が適していると考えております。

和田委員 続けて、もう1点なのですが、他教科への応用ですとか、そのようなことを考えた場合に、メモのとり方ですとかお礼状の書き方など、各者色々な工夫がしてあると思うのですが、その辺で

特徴的なものがあれば、また優れた点があれば教えていただけますでしょうか。

石塚指導主事 どの教科書も実生活に生かせる教材がたくさん散りばめられております。メモなのですが、教育出版が2年生という一番低い学年からメモの書き方について書かれております。そのあと4年5年6年でもそれぞれの学年に応じた書き方を教えております。また、光村は中学年の4年生で、学校図書、日本文教は5年生、東京書籍は6年生ということで実態に合ったメモのとり方を指導しております。

中野委員 姿勢がとても大事だと思うのですが、どの教科書も工夫されていて、大きな差はないかなと思うのですが、3年生で初めて筆を使い始める段階になった時の筆の使い方の説明が、私は教育出版の解説がわかりやすいかなと思いました。

小西委員 私も中野委員と同じ意見なのですが、これまでの教科書に比べ、どの出版社も、教科横断的な視点でつくられており、非常に変化をしているなど感じました。

千葉市の課題の中で、幼児期の早い段階から筆記具を持ち始める児童が多く、小学校入学時点で持ち方を誤っている子が多いという点があるのですが、この点、教育出版は、筆の持ち方の説明が写真で非常にわかりやすく書かれているなど感じました。あと、教育出版は、実際に書写が日常生活の中でどのように利用されているのかという点の説明が非常にわかりやすいなど感じましたので、教育出版がいいのかなと考えています。

磯野教育長 私もこちらに関しては、今回新しく買った水書きシートについては全部やってみて測ったところ、最大乾くまで20分かかったところもありました。やはり子どもたちは筆圧の関係で、上手く水がつかない、また、水をつけてしまうと、使う筆によって随分違うということがよくわかりましたので、先ほども言ったように、どのように使っていくかということが、指導計画にどのように盛り込まれるかということが気になりました。

あとは、やはり筆圧がわかる朱墨の濃淡の鮮明さについて着目しており、教育出版がいいかなという感じがしました。

それから、見開きで指導ができるという観点からいうと、やはりこちらも同様に教育出版がよく工夫されていると感じました。

いずれも、今回は何時間扱うかわからないのですが、メールが増えているので、手紙の書き方などについてはしっかり大

事に着目し、指導してほしいという思いを持ったところです。

和田委員 私も皆さんと同じ意見で、教育出版がいいと思っています。やはり、教育長がおっしゃったように、朱墨の部分がとてもわかりやすく、子どもたちがどのように力を入れたらいいのかわかり易いのかなという部分。

それから、実生活での応用が、メモのとり方などもとても細やかに出ていて、書写という教科の広がりと可能性を感じさせてくれると感じました。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「書写」教科用図書の決定をいたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「書写」の発行者は5者、「東京書籍」「学校図書」「教育出版」「光村図書出版」及び「日本文教出版」です。この5者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

教育出版、5票。教育出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「書写」の教科用図書は、「教育出版」と決定しました。

《社会》

磯野教育長 小学校用「社会」に係る選定結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「社会」について報告します。

10ページをご覧ください。

はじめに、「千葉市の児童が必要とする教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における社会科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、グロ

ーバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを旨とする。」とあります。

本市の児童の学力については、平成29年度千葉市学力状況調査の結果からは、第3学年についての市平均正答率は、県平均正答率と同数値です。観点別正答率は、「関心・意欲・態度」及び「技能」において上回っています。

次に、第5学年ですが、市平均正答率は県平均を上回っています。観点別正答率は、「技能」が上回っています。

このことから、本市における社会科学習における課題としては、3年、5年ともに県平均を上回っている観点・領域が見られるものの、今後もさらに社会事象から得た知識を比較・関連づけて考え、活用することを通して、多面的な見方で社会的事象を捉らえていく力を育成していくことが挙げられています。そのためには、児童が主体的に問題解決的な学習を充実させていくことが重要であると考えました。

従って、教科用図書を選定するに当たり、(1)から(5)のような5つの特色を有することが必要であると考えました。

次に、教科用図書を選定するための観点ですが、11ページに掲載いたしましたので、ご覧ください。

それでは、調査研究報告書について、具体的に説明いたします。12ページになります。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(3)で、3年の38ページから51ページまでの「農家の仕事」の単元において「つかむ・調べる・まとめる」の一連の学習過程を明示して、問題解決的な学習を促し、その中で社会的な見方・考え方についてイラスト入りでわかりやすく示しています。また、学習過程の中に「みんなで話し合う」、対話的な表現で活動を促しており、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されています。

「内容」(3)では、6年の2、3ページ「歴史学習の基本をおさえよう」は、巻頭に千葉市周辺の史跡を扱っています。地域素材を取り上げ、学習への興味・関心を持たせる工夫・配慮がなされています。

続きまして、「教育出版」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(3)では、各学年の巻頭に「社会科学習の進め

方」が見開き 2 ページにわたって示されています。また、「社会科の見方・考え方」についても、学年の発達段階に応じて、見通しを持って主体的に学習を進めていけるように、各学年の巻頭に示されています。

「内容」(1)では、各単元の左のページに、「この時間の問い」でその時間の問題を明確に示して、右のページでは「次につなげよう」を記載して、一貫性のある追求ができるように、学習活動のつながりを重視した構成になっています。

最後に、「日本文教出版」についてですが、社会科的な見方・考え方を育成するため、「見方・考え方コーナー」を設け、「空間」「時間」「関係性」の 3 つの視点を単元の中でとりあげています。

次に「内容」(2)では、4 年の 5 7 ページ、「くらしを支える水」の単元終末では、学習してきたことを話し合いを通してさらに深めていくよう例示しております。このような活動が、5 年「日本の国土と人々のくらし」や 6 年「憲法と政治のしくみ」の単元などでも見られます。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、3 者とも同じ A B 判でございます。また、東京書籍のみ、5、6 年が分冊となっています。

以上で社会科の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 新しい学習指導要領では、公民としての資質・能力の基礎を育成するというふうに、大きな目標が出ております。各者とも大変その部分、工夫があるところだと思うのですが、4 年生の学習の仕方が、歴史先習から政治先習に変わったということからもわかるように、主権者教育ということが小学生でもとても重要になってきているのかなと感じております。

主権者教育という点から見て、各者特徴的なことがあれば教えていただきたいということが 1 点。

それに関連してなのですが、住民自治ということで、身近なところに子どもたちが感じられる地域のことに関しての住民自治に触れている教科書があれば、特徴的なことを教えてください。

鈴木(恵)指導主事 まず、主権者教育については、三者とも国民の声を政治に生かすという視点で記載をされています。東京書籍と教育出版については、憲法と国民主権と選挙とを三つ関連付けて、1 6 ページ、1 7 ページのところで記載をしております。日本文教出版につい

ては、憲法と国民主権の関係について、19ページのところで記載をしております。

次に、住民自治ですが、大切に扱うということで、3年生の内容から、例えば消防、警察のあたりから住民自治、住民がどのように関わっていくかという視点で、三者とも記載されています。4年生の防災やごみ、環境、このようなところで同じように取り上げられておりますが、教育出版については記載事例が他より少ないかなというふうに思います。そして、東京書籍については、多面的な捉えを導く問い、誰がどのような取組みをとというような視点多いという報告が上がっております。

磯野教育長 私も今回注目してみたのは、やはり主権者教育と身近な選挙も含めて、政治に関する点については、いずれもきちんと書かれていると思えました。

もう1点は、やはり今回これが出てきた、電子教科書の前ぶれでもありますけれども、QRコードの扱いが今後どうやっていくのかと思い、全教科、これから発表していきますが、この扱いをどうするかということが、これから各教科に求められてくるし、指導計画を作る際にどうするのかということが、やはり今後、教科指導の上では、大きな視点だと思えました。

あと、社会に関しては、地域性についての適用は、皆さん取り上げているので、その重要度はそれほど考慮しなくてもよいかという思いがしました。

そういったところから考えていくと、文章表現や多様な表現活動を通して、思考力を育てていく記述が多い東京書籍と、教科の目標を巻頭に示して、課題から解決に向けた内容が適切にわかる教育出版です。これは、他の教科でも見られるのですが、この2者のどちらかにということでは私は今決めております。

中野委員 私も総合的に東京書籍がいいかなと思いますけれども、また、私の一つの意見として、出版社の方をお願いしておきたいことは、中国での南京での事件は、日本全体でコンセンサスが得られた問題ではないので、そこを考慮して書いていただくといいかなと思います。

小西委員 私も最終的には、総合的に見て東京書籍がよいかと思っております。形式面なのですけれども、最近、地図や資料の読み取りが苦手な子が多い中で、東京書籍は非常に図や写真が豊富で、資料や地図の配置がとても工夫されているなと感じました。

あと、内容面についてですけれども、私は主権者教育に注目して読んだのですけれども、どの者も、憲法や政治、選挙についての情報、知識については十分に触れられており、一緒だと思えます。しかし、さらに突っ込んで、主権者教育の目的、つまり、対立し合うようなさまざまな意見を聞きながら、自分の意見をしっかり持って、より良い解決を目指していくという視点をしっかり子ども達に学ばせようという点がより強く表れているのが東京書籍であると感じました。

あと、歴史についても、東京書籍のほうは四コマ漫画で歴史上の人物の気持ちを考えさせたりであるとか、信長と秀吉のどちらが天下統一に寄与したかであるとか、おもしろい視点の題材がありまして、子どもたちの思考力がつくだらうなと感じました。

千葉委員 東京書籍に千葉の情報が出ていますけれども、これがもし県や東京都など、違うところであったら、変わっているのでしょうか。

鶴岡教育指導課長 これは全国統一の教科用図書です。

和田委員 私も東京書籍というふうに思っております。やはり、写真やグラフが豊富であること、それから非常に鮮明であること、技術もそうなのですけれども。写真が本当に鮮明で、子どもたちに事実を伝えるということが主要な教科だと思えますので、素晴らしいと思います。

それから、問題提起をして、状況把握をして、それに対して疑問を持って調べ学習をしていこうという、その流れがうまくできていると、全体を通して感じました。

あともう1点は、6年生が分冊になっていて、政治・国際編と歴史編というように、わかりやすく分野別にしているというのも、新しく子どもたちに対しての主権者教育ということの重要性を感じさせるということにも寄与するのではないかと感じております。

あともう1点、地図帳を今回から3年生が使うようになっているかと思うのですが、3年生の段階から、地図を見ると何々とか、地図帳で調べると何々といったような記述が多いので、あわせて地図帳を使うような扱い方に、授業の中で自然と入っていけるのではないかとと思ひまして、トータルで見て東京書籍がよいのではないかと感じています。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「社会」教科用図書の決定をいたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「社会」の発行者は3者、「東京書籍」「教育出版」及び「日本文教出版」です。この3者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 ただいまの投票結果について報告いたします。

東京書籍、5票。東京書籍が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「社会」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

《地図》

磯野教育長 小学校用「地図」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「地図」について報告します。

14ページをご覧ください。

学習指導要領における目標は、社会科に準じておりますが、各学年の地図にかかわる目標を明記しました。

本市の児童の学力については、社会科でも傾向は示しましたが、資料、地図等から事実を正しく読み取り、それを関連付けて考え、多面的な見方で社会事象を捉えられる力を身につけることが課題となっております。

従って、「読み取りがしやすく、かつ豊富な資料」といった特色を有する教科用図書、いわゆる地図を選定する必要があるものと考えております。

次に、教科用図書を選定するための観点についてですが、15ページに掲載いたしましたので、ご覧ください。

「千葉市の児童が必要とする教科用図書」の「千葉市の児童の学力と今後の課題」の中で、「世界の大陸と主な海洋」「日本の国土」等基礎的・基本的内容の理解に課題があること等を受け、「市

の学校教育指導の指針に適合し、『確かな学力』を育てる基礎的・基本的内容が配慮されているか。」という観点を設定いたしました。

次に、調査研究報告書について具体的に説明いたします。

16ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」の（１）では、イラストや写真を多く使用するとともに、児童の作業を促すキャラクターの吹き出しの台詞があったり、漫画を使用した索引の引き方の説明や、索引の地名等のひとつひとつにチェック欄を設けたりするなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、よく工夫されています。

内容の（３）については、79から80ページにかけて、日本の世界文化遺産、自然遺産が写真付きで掲載され、日本各地の名産品や郷土の偉人が取り上げられているなど、日本の伝統や文化への理解を深めていくことができるよう、よく工夫されています。

（４）では、7から14ページを「地図学習」のページとし、地図帳を初めて手にする3年児童のことを考慮し、地図の仕組みや約束事、また、地図帳の使い方等、丁寧に記載しており、よく配慮されています。

続きまして、「帝国書院」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」の（１）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童が進んで探求学習を行うことができるよう、「地図マスターへの道」というコーナーがあります。児童が進んで探求学習を行う中で、地図活用の技能を身につけ、位置や空間的広がりについて気付くことで、社会的な見方・考え方を育てる工夫がされています。

また、（３）では、新たに第4学年で位置づけられた「自然災害から人々を守る活動」について、「過去の災害事例」、これは91ページ、92ページになります。そして、「災害を防ぐ工夫」、これは93ページ、94ページになります。これは、学習指導要領の求める内容に合致しているとともに、千葉市の立地からも防災への言及は適切なものと考えます。

「内容」の（１）については、29ページの「日本の領土とそのまわり」で、我が国の領土の範囲、我が国の東西南北端の写真と解説、日本固有の領土についても写真と適切な記述がされていて、よく配慮されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、両者ともA4判でございます。

以上で小学校地図の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 両者ともにいいところ、もう少しこうだったらいいなと思うところが少しずつあるのですが、歴史について割いているページが、東京書籍のほうが歴史に関しては年表も含めて、詳細な記述があるようです。歴史の授業の中で地図帳を使う場面というのはどのようなときなのかということと、それについて、帝国書院が東京書籍ほど記述が多くないということについて何かございますか。その点を教えていただけますでしょうか。

鈴木(恵)指導主事 歴史の学習の中で地図をどのように活用するかということですが、その事象が起こったことがどこであったかというのを、地図帳を調べながら行っていくことは肝要だと思います。ただ、主なものは、社会の教科書の中に地図を載せておりますので、今回、東京書籍にはそのページが多く掲載されておりますが、多くのものが教科書の中で扱われておりますので、帝国書院のほうに何か問題がということだと思いますが、地図が載ってなくても教科書で補うことができるので、大丈夫であると思います。

中野委員 この地図を小学校3年生から使うということを考えますと、帝国書院のほうが、絵や説明なども読みやすいですし、最初の解説も、初めて地図を見る子どもにとっては、地図って何だろうというところでいろいろ解説していますのでわかりやすいと私は思いました。

千葉委員 僕も中野委員と一緒になのですが、あえて教科書の地図の中に白いところがあり、白いところは何にも載ってないと書いてあるところがクローズアップされ、ぎゅっと1ページの中に押し込むのではなく、読みやすいなと思いました。

和田委員 ページ数なのですが、帝国書院と東京書籍と比べて、大分ページ数に差があります。それと、その割に帝国書院のほうは、重さが軽くて、その点でもとても扱いやすいなというふうに感じました。

あと、帝国書院のほうが、開いた時のページの奥の部分まで、非常に文字がはっきり見えて、すごく装丁がよくできているなと思いました。

そして、情報量が多いのに、これだけ見やすくできているとい

う部分で、私は帝国書院がよいのではないかなと思います。

磯野教育長 私は当初から申し上げましたように、QRコードに着目しまして、QRコードのクイズをやってみたのですけれども、非常におもしろいと思いました。これはどのように使っていくかで、有効活用ができるかなと思いました。

それから、歴史に関しては、先ほど見解はわかったのですが、やはり昔と違って、資料集として使うケースが非常にあるようなので、その使い方であるとか約束など、そのような言葉などもよく整理されています。色彩に関していろいろ見やすい、見にくいはあると思うのですけれども、私としても帝国書院が使いやすいかなという感じがしましたので、意見を述べさせていただきます。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「地図」教科用図書の決定をいたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「地図」の発行者は2者、「東京書籍」及び「帝国書院」です。この2者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

帝国書院、5票。帝国書院が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「地図」の教科用図書は、「帝国書院」と決定しました。

《算数》

磯野教育長 小学校用「算数」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「算数」について報告します。

17ページをご覧ください。

学習指導要領における算数科の目標は、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す、とあります。

本市の児童の学力につきましては、基礎的な計算や作図、基本図形の求積等は良好ですが、主体的に学習課題に取り組み、自分の考えを論理的に説明し合い、ねらいに迫る話し合いをすることや、既習事項を活用して問題解決に粘り強く取り組むことは苦手であるといった傾向があります。

従って、一人一人が自らの問いをもち、解決への意欲をもって学習課題に取り組み、成果を実感できるようにすることが必要です。そのためには、「見通し」「振り返り」の過程を重視することが重要です。また、ねらいを明確にし、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、主体的な学び合いを通して、思考力・判断力・表現力を育む授業実践に努めること、が課題となっています。

従って、学びのプロセスや学び方が明示され、主体的に問題解決に取り組むよう工夫されていたり、数学的な見方・考え方を働かせながら対話的な学びを行うことのできるように工夫されていたりする、そんな特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

続きまして、教科の観点について説明いたします。

18ページをご覧ください。

「内容」(4)の項目についてですが、本市の児童は、学力状況調査の結果から、学力の二極化が進んでおり、算数が好きと答える児童が低下しているということが課題となっております。そのため、個々の習熟度に応じた学習が適宜行われ、算数の楽しさやよさを味わうことができるような、学習が必要であると考えます。

そこで、「補充的・発展的な学習」という視点を設定し、個々の理解に応じ、きめ細かな指導ができるよう配慮されているかということ視点をいたしました。

次に、調査研究報告書につきまして、調査結果を具体的にご説明いたします。

まず、「東京書籍」についてですが、新しい学習指導要領への対応の(1)では、6年の63ページから67ページなどの「今日の深い学び」に見られるように、授業での数学的活動の場面を可視化し、主体的・対話的で深い学びの具体的な姿について理解できるよう、工夫されています。

また、4年下の154ページ、「ふりかえりコーナー」では、

数学的な見方・考え方に焦点を当て、単元全体の学習を振り返ることができるようになっていきます。

また、「内容」(2)では、5年上の39ページ、「おぼえているかな」でこれまでの学習内容を適宜復習しながら、次の学習のレディネス問題も入れており、よく工夫がされています。

続きまして、「大日本図書」について、新しい学習指導要領への対応(3)では、3年の262ページ、「ひらめきアイテム」にあるように、80ページからリンクさせる形で、巻末シートに「獲得した考え方」をメモさせ、学習に活用できるよう、よく工夫されています。

また、3年の160ページなどで見られるように、たしかめ問題の中に、「しっかりチェック」「水色の印のある問題」など、個々の習熟度に合わせた指導ができるよう工夫されています。

「学校図書」についてですが、「内容」(1)では、3年上の62、63ページのように、問題発見から見通しをもつ場面を、イラストや吹き出しで表したり、その後の問題解決に関して「かいついたいな」「考えたいな」「せつめいたいな」などの学びのガイドを示したりし、深い学びにつなげる工夫がよくされています。

続きまして、「教育出版」ですが、

「新しい学習指導要領への対応」(1)では、6年の23ページから25ページのように、問題発見から解決の過程を「はてな？」→「なるほど！」で表し、問いの連続で学習を進めることができるよう工夫されています。

また、「内容」(3)については、学習したことを日常に生かす場面を設定したり、総合的に活用する問題に取り組んだりすることで、読解力や表現力、問題解決能力を高めたり、活用力を育成したりしている点が優れています。

次に「啓林館」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(1)では、2年上の102、103ページにあるように、単元のはじめに「じゅんび」のページを設定し、既習事項や日常の問題から課題意識や見通しをもち、主体的に学習ができるよう工夫されています。

また、「内容」の(2)では、3年下の14、15ページ、4年上の122ページなどのように、問題文から「aのb倍がc」という文脈を読み取るための図として、3年生以上に関係図を一

貫して扱っており、その一貫性は数量関係を理解する上で適切であります。

最後に、日本文教出版ですが、「新しい学習指導要領への対応」(1)として、5年上の巻末にあるように、「学び方ガイド」という切り取り式のシートがついています。それには、問題解決4つのステップや算数で使いたいことば・考え方が示されており、主体的・対話的で深い学びと数学的な表現力を育てる工夫がよくされています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍の2年生以上と大日本図書、教育出版、啓林館、日本文教がB5判サイズになっています。東京書籍は、1年生のみA4判になっています。学校図書はA4判になります。

また、分冊、合本に関しましては、東京書籍と日本文教が6年のみ合本となっております。大日本図書は全ての学年合本、学校図書は全ての学年分冊、教育出版と啓林館は2年、3年、4年が分冊となっております。

以上で算数科の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

小西委員 算数は割と得意な子と苦手な子が、はっきり分かれてしまう教科かと思うのですが、もちろん個人差はあると思うのですが、苦手意識を持つ子というのは、大体どのあたりの分野で苦手意識を持つ子が多いのかという点と、その分野に対して、できるだけつまづかないような工夫について、各者特徴があれば教えていただけますでしょうか。

林指導主事 つまづきやすい単元については、小学校4年の「簡単な場合についての割合」についてが挙げられると思います。簡単な倍の割合については、各者とも対応しています。学校図書は、倍計算として直接単元を設けています。啓林館と東京書籍は、割合の3用法を1つの単元にまとめてあり、理解しやすくなっています。啓林館は、3年生から、何倍かを求める関係図を用いていて、関係の書き方を丁寧に扱っており、数量の倍関係を正しく把握するための工夫がよくなされています。

和田委員 算数という教科は、なかなか生活に密接につながりにくいという部分があると思うのですが、生活に活かすなど、身近に感じられるという点で、各者優れている点があれば教えていただけますでしょうか。

林指導主事 各者とも日常の事象から問題を見いだしたり、日常生活に活かしたりと、身近に感じられる工夫がされています。また、カリキュラムマネジメントの観点からも、各者とも他教科との関連を図っております。

啓林館では、キャリア教育の一環として、算数が様々な職業につながっていることを紹介しており、社会での活用を実感できるよう配慮されています。

学校図書、東京書籍、教育出版の6年生の統計学習では、身の回りの事象について問題意識をもてるよう工夫されており、目的に応じてデータを収集し考察するような流れとなっています。従って、各者とも統計学習について身近に感じられる工夫がよくされていると考えられます。

和田委員 先ほどのご説明の中で、何度も振り返って学習することが大切というような話がありました。算数という教科は、全くそれぞれの単元が違うということではなく、密接に絡み合いながら授業を進めていくということなのではないかと思います。なので、どこか1つの単元の定着が遅れても、次になかなか進みづらいのではないかと思います。その辺で、単元ごとに振り返るのではなくて、単元をいくつか終わった後に小まめに振り返りの部分を設けている者があるかと思うのですが、その工夫について優れている点などありましたら、例えば東京書籍の「おぼえているかな？」のように、何単元かまとめて振り返るような部分について優れている者があれば教えてください。

林指導主事 各者とも練習問題や復習問題が充実していて、基礎・基本の定着をしっかりと継続して図ることができています。また、答えや解決方法を巻末に載せてあり、それを照らし合わせながら確かめることができるので、児童が自主的に復習をすることができます。

東京書籍では、「おぼえているかな？」や、途中の問題などで答えを確認しながら自己評価ができ、児童の習熟度に応じて取り組むことができます。大日本図書の「たしかめ問題」では、毎時間の適用問題とともに、単元ごとの補助、発展問題が入っており、しっかりチェックなど個々の習熟に応じた学習の対応になっています。啓林館では、練習問題のページに「もっと練習」、そして問題のページと答えのページの解決方法を対応させながら確かめられるよう、よく工夫がなされています。

中野委員 どの教科書もいろいろと工夫をしてよく作られておりますけれども、先ほど小西委員の質問に対して、「割合」のところがつまづきやすいということでしたので、その点から見ますと、私は啓林館の「割合」の図を書いた説明が非常にわかりやすいと思います。

それぞれ各者とも工夫はされていると思いますけれども、比較的、こういう図を見ながらですとしっかりと理解できるのではないかと思いましたので、私は啓林館のその教科書を推薦したいと思います。

磯野教育長 私は、学習を振り返り、問題解決しようという態度ということではいろいろ提案がありましたけれども、やはり生活に活かすというのはかなり難しいところがあると思います。そして、今回、うちのほうの学力が二極化しているということがあって、まさに4年生からということは、これは昔からずっと言われています。そこにどうアプローチしていくかということが大事だと思うのですが、そのような観点では、学習のめあてが示されていることと振り返りができること、生活に活かすことができているという観点からいえば、私は学校図書がいいと思いましたが、ただ、この中で、大変申し訳ないのですが、イラストなど色彩がもう少し鮮明だとわかりやすいかということと、大きさがこれでいいのかというのが、正直なところ私の感想でございます。

同じように、学びを深めようであるとか、学びを活かそうということで、必要な内容が取り扱われているということに関しては、皆さんから言っているように、啓林館の方がその点では優れていると思いますので、私はこの2者がいいかと思っているところでございます。

千葉委員 私も中野委員がおっしゃっていたように、今、見比べてみると、ほかの教科書は5年生からなのですけれども、ひっかかりやすいという割合が、啓林館さんだと4年生からやんわりと入っているから、やはり少しずつでも若い年齢から入って、長い時間かけてということが大切なのかなと思いました。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「算数」教科用図書を決定いたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「算数」の発

行者は6者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」及び「日本文教出版」です。この6者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。投票があった発行者のみの報告いたします。

新興出版社啓林館、5票。新興出版社啓林館が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「算数」の教科用図書は、「新興出版社啓林館」と決定しました。

《理科》

磯野教育長 次に、小学校用教科用図書「理科」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「理科」について報告します。

22ページをご覧ください。

最初に、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明します。

学習指導要領における理科の目標は、「自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す」とあります。

本市の児童の学力についてです。平成29年度千葉市学力状況調査報告書によれば、3学年で物の重さの性質についての思考・表現が十分でなかったり、5学年で発芽の条件やメダカの成長に関する知識・理解が十分でなかったりするなど、目的意識をもたせた観察・実験、根拠をもとにした思考力・表現力の育成が課題となっております。

次に、教科用図書を選定するための観点について説明します。23ページになります。

本市の学校教育の課題「21世紀を拓く」の理科の課題として示されております、「児童が目的意識をもって観察、実験に取り

組める主体的な学びを推進するとともに、自らの考えを広げ深める対話的な学びを通して、問題を科学的に解決する授業の工夫改善に努める」ことと、「理科を学ぶことの意義や有用感を実感できるように、学んだことと自然事象や日常生活との関連を図ったり、『振り返り』の工夫に努めたりする」ことを視点とし、問題解決の過程を重視した展開になっているか、学年で育てたい能力を明確にしているか等を選定の基準といたしました。

調査研究報告書について、具体的に説明いたします。

24ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(2)では、6年の69ページ、「つなげて考えよう」でキウイフルーツの受粉作業を掲載して社会科との関連を、「理科のひろば」ではキャリア教育を意識した構成となっている点がよく工夫されています。

「内容」(4)では、基礎的・基本的な問題から発展的な問題まで、幅広く対応しています。「学んだことを使おう」のページでは他教科や日常生活との関連を、「考えよう」のページでは「活用」の力を育成することができる構成となっております。

続きまして、「大日本図書」、3年をご準備ください。

「新しい学習指導要領への対応」(1)では、3年の72ページ、「音の伝わり方」のグループでの話し合い活動のイラストの吹き出しが児童の思考を促すヒントとなっており、対話を通して学びが深まるように、特に工夫されています。

また、「内容」(1)では、各学年の3ページから5ページ「教科書の使い方」で、「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の3つに色分けして表示されており、思考力や判断力、表現力等の育成において特に優れています。

「内容」(4)では、5年の156、157ページ、「学んだことを生かそう」に電磁石の働きを用いた工場のクレーンが掲載されるなど、学んできた知識と身近な生活とのかかわりが適切に取り上げられています。

続きまして、「学校図書」です。

「新しい学習指導要領への対応」(1)では、6年の164ページ、「塩酸にとけた金属」でのキャラクター同士の対話などにより、自分とは違う視点で考えたり表現したりする場を多く設け、考えが深まるようによく工夫されています。

(2) では、3年の165ページ、「牧野富太郎の功績」や各学年表紙や裏表紙に科学者の写真やメッセージを掲載するなど、歴史上の人物と科学のつながりが感じられるよう、よく工夫されています。

続きまして、「教育出版」です。

「新しい学習指導要領への対応」(1) では、3年58ページや62ページ、「風やゴムの力」で実験結果をドット表にまとめたものを用いて、話し合っている様子が詳しく示されています。

「内容」(4) では、各学年の「たしかめ」の最終問題に身近な現象に当てはめて考える発展的な内容が取り上げられたり、6年の148ページ、「地震や火山と災害」などの防災教育を取り上げたり、よく工夫されています。

続きまして、「信州教育出版」です。

「内容」(2) では、3年の109ページ、「やってみよう」「しりょう」に見られるように、発展的な実験や産業への応用などについて掲載するなど、学習活動の質が高まるようによく工夫されています。

最後に、「啓林館」です。

「内容」(2) では、4年の168ページ、「消えた水のゆくえ」、6年は105ページ、「水よう液と金属」のように、実験の予想と計画の場面で、問いかけや子どもたちの会話の例が随所に示されており、理科の見方・考え方が学びやすいように工夫されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍がA4判、教育出版がA4の変型判、その他の4者はAB判になります。

なお、いずれも分冊はございません。

以上で理科の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 私たちがいろいろな小学校を訪問させていただく際に、一番多く拝見するのが水溶液の部分の授業です。液体に溶けているものが現実にはちゃんと溶けているということを理解するというのはなかなか難しいことなのではないかなというふうに思います。水溶液の部分为例にとりて、各者、何か特徴的なことがあれば教えていただけますでしょうか、理解しやすさという点でお願いします。

鈴木(巧)主任指導主事 6年生の「水溶液の性質」のところの説明をさせていただき

ます。

金属を溶かす水溶液のことというのは、児童にとっては余りなじみがなく、非常に難しい内容となっています。この部分で、教育出版や東京書籍、大日本図書の各者は、生活にできるだけ児童が身近に感じられるような工夫をしております。例えば、大日本図書では、「金属の弁当箱」などに書いてある注意書などに触れ、「金属が酸に触れて溶けることがあるというようなことで注意してください」というのが書いてあり、そのようなものを活用することによって、よりこの難しい問題を児童が身近に感じられるような工夫をしているところが特徴的です。

和田委員 もう1点ですが、ほかの教科でももちろん必要な單元かと思うのですが、プログラミング教育について、各者触れてはいますが、身近に感じられ、理解しやすいという点ではいかがでしょうか。

鈴木(巧)主任指導主事 プログラミング教育については、どの教科についても、6年生の電気の働き、電気の発電・蓄電のところで掲載されています。どの教科書でも新しい内容ですが、内容的に大きな違いはなく、どの教科書会社についてもわかりやすい内容となっています。

磯野教育長 私のほうから意見を言わせていただきます。

若い教員が増えたことで、観察や実験等に課題が見られることから、やはり教員の指導しやすい教科書がいいかなと思います。

先ほども説明がありましたけれども、やはり啓林館等は詳しく記載されている状況もあります。

2点目がQRコードですが、このQRコードは理科に関しては欲張り過ぎて、いろいろなところにつながってしまうという、私にとってはがっかりした分も少しあったのですが、あまり欲張らなくてもいいのではないかという点については、今後、各者で考えていただければと思います。

そして、補充・発展的な学習が工夫されているのはどこもやっているのですが、どのようにそれを扱っていくかということは非常に難しいと思うので、そこのところをどうするかということは、本日、何度か言っているように、今後、指導計画を作るときには反映させていただきたいと思います。

相対的に見て、やはり教科の目標や観察・実験の基本的技能、観察・実験を通した問題解決能力、主体的な問題解決が図られている大日本図書については、やはりきちんと記載されているとい

う感じを持ちました。

中野委員 どの教科書もいろいろとよく書かれていると思うのですが、細かい点は違いがわからないことも多いので、私としては自分の専門のところから見まして、前回も同様なことを申し上げましたが、人の生命の誕生という項目に対しましては、東京書籍の内容が、特に胎児の写真が、大判ということもありますけれども非常にきれいで、それから全体の流れも非常にわかりやすく、初めてこういうことを勉強するわけですので、全体的に、ほかの項目も含めまして、私は東京書籍を推薦したいと思います。

小西委員 どの者も非常に内容がよくできていて、非常に悩ましかったのですが、最終的に、私は大日本図書と東京書籍で悩みまして、東京書籍の「レッツ スタート！」という、最初の導入部分、疑問や興味を持たせる部分が非常によくできているなど思いました。大日本図書も、観察して疑問を持って予想を立てて実験、考察というのが、子どもたちにとってもよくわかりやすい形で書かれているなどということ、2者で非常に迷っているのですが、この2者でこういう点が非常に優れている、こちらはこういうのが優れているというところを教えてくださいたいのですが。

鈴木(巧)主任指導主事 東京書籍は、紙面の大きさに余裕がありますので、写真やイラスト、説明を効果的に掲載できているというところで、また、キャリア教育を強く意識した教科書づくりがなされているところが全体的にあります。

大日本図書については、先ほども申し上げましたが、最初の3ページから5ページあたりの理科の学び方のところで、「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」の、この3つに色分けし、千葉市が大事にしている問題解決の力が自然と身につくような構成になっています。

さらに、考察する力がつくように工夫がなされており、結果を言葉で表現した時の例が大日本図書には掲載されており、これらのところが優れている点かと感じています。

和田委員 私も皆様と同じで、大日本図書と東京書籍、2者がいいのではないかなと考えているのですが、比較してみて、紙面をぱっと見たときに、やはり問題提起して、気づいたことを話し合ったり、問題を提起して、予想を立てて、計画を立てて、実験・観察をして結果、考察、結論と、段階を追っていくんだと思うのですが、

それが非常に紙面の中でわかりやすく、いつも同じような形式で書かれているので学びやすいのではないかなという点で、大日本図書かなというふうに思っております。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「理科」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「理科」の発行者は6者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版社」及び「新興出版社啓林館」です。この6者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告します。

東京書籍、1票、大日本図書、4票。大日本図書が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「理科」の教科用図書は、「大日本図書」と決定しました。

《生活》

磯野教育長 小学校用教科用図書「生活」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「生活」について報告します。

最初に、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における生活科の目標は「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成すること」とされています。

本市の児童の育成を目指す資質・能力を育成するためには、自分の思いや願いをもち、具体的な活動や体験と、感じたり考えたりしたことの表現を繰り返し行うことで、気づきの質を高めていくことが大切です。本市の生活科においては、幼児教育で培った

経験を小学校教育の学びに円滑につなげ、気づきの質を高めることが課題となっております。

従って、幼児教育との接続を意識したスタートカリキュラムの工夫がなされ、主体的な学びへつながる導入と表現活動が工夫されている教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

教科用図書を選定するための観点について説明します。

「新しい学習指導要領への対応」(1)では、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、その体験活動と表現活動とが相互に繰り返され、新たな気づきを生み出すように工夫されているか、という視点を作成しました。

「内容」(1)では、幼児教育との接続が工夫されているか、伝え合い表現をする場面が設けられているか、という2つの視点を作成しました。

では、調査研究報告書について具体的に説明します。

29ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「内容」(1)では、上の1ページからの“がっこうせいかつすたあと”をご覧ください。ここでは、保護者と児童と一緒に教科書を見て、期待をもって小学校生活を送ることができるように工夫されています。

また、(4)では、上下とも巻末にある図鑑や手帳が、個々の児童の興味・関心や理解に対応できるように工夫されています。

「大日本図書」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)で、下の28、29ページ、ここでは、自分も一緒に虫眼鏡でダンゴムシを見ているような構図になっています。単元の導入ページで児童が感動や興味・関心を持ち、学習を進めることができるような工夫がされています。

また、造本で、触れて楽しい表紙、真ん中に穴が開いているように見えるデザインとなっています。この穴が秘密の穴となり、上下巻を通して、新しい単元に入る時に秘密の穴をのぞき、探求していくような構成となっております。

次に、「学校図書」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(1)では、上の16ページから21ページ、「わたしのあさがお」に見られるように、自己決定ができるような工夫があります。

また、「内容」(4)では、図鑑に名前や鳴き声、目にすること

の多い抜け殻などが載り、発展的な学習ができるように配慮されています。

「教育出版」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)について、下の69ページ、「何をかんじたかな」では、「書き込み欄」で学びの軌跡を残し、「まんぞくハシゴ」で振り返りをすることができます。

また、「内容」(1)では、「「せいかつかがはじまるよ」に見られるように、入学時の合科的・関連的な指導や時間割を例示し、幼児期に習得・体験したことを生かして学校生活を始められるように配慮されています。

「信州教育出版」です。「新しい学習指導要領への対応」(2)では、上の112ページ、「はるのななくさ」に見られるように、体験にかかわる歌や文章が活用されており、他教科と関連付けた学習の中で言語能力も高められるよう工夫されています。

「光村図書」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)では、上の28ページから45ページ、「さかせたいなわたしのはな」に見られるよう、各単元の左上に3段階構成を提示し、児童が見通しをもって表現活動を繰り返しながら、深い学びに結びつくよう工夫されています。

「内容」(2)では、上の77ページなどの「どうすれば」に活動のヒントが示されています。

「啓林館」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)では、上の12、13ページの「こうていをたんけんしよう」に見られるように、小単元名、活動へ誘う言葉、活動の気づきの言葉、そしてめぐり言葉が見開きで構成され、児童の考えに沿って学習が進められるように工夫されています。

(3)では、「見つけたあきをじっくり見よう」で見られるように、美しい色の葉の写真や本当の大きさを示し、興味・関心を持って学べるようになっています。

「日本文教出版」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)では、上の22から27ページの「がっこうをたんけんしよう」に見られるように、活動の様子がわかる写真を効果的に配置し、見通しをもてるように工夫されています。

「内容」(1)では、下の4から9ページ、「2年生がはじまるよ」などにあるように、他学年や他教科へのつながりを重視し、円滑な接続がなされるように工夫がされています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍がA4判、学校図書がA4の変型判、その他の6者はA3判になっています。

なお、各者、上下の2冊となっております。

以上で生活科の報告とします。

磯野教育長 では、質疑に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 ご説明にもありましたように、豊かな体験活動、それから表現活動、これができることが大事な教科で、特に低学年の教科ですから、わくわくして子どもが取り組めることが大切だと思いますが、そのわくわく感ということに関して、教える側の立場、学ぶ側の立場、両方あると思いますが、特徴的なことを教えていただければと思います。

佐藤指導主事 東京書籍ですが、多様な表現活動ということで、たくさんの職業事例が載せられております。ページでいきますと、上の21ページの、子どもたちが発表している場面ですけれども、ここにあるような掲示物やカードを使いながら発表している事例があります。

また、大日本図書の下の10ページ、大きな写真が見開きであります。普段見慣れているたんぼぼの綿毛の写真です。ここ見開きに大きな写真があることで、今まで気がつかなかった部分に目が向き、このようになっているのだという新たな子どもたちの気づきを引き出す、もっと調べたいなという気持ちの掘り起こしを、させる導入として効果的ではないかと思えます。

また、学校図書、上の21ページ、種を蒔く部分ですけれども、普通ですと、先生が用意した植木鉢に種を蒔きましょうとなるのですが、吹き出しにもある、暖かいところがいいね、どこに置いたらいいかなということで、子どもたちが自分で決めるというところが具体的に書かれています。

和田委員 私も今ご紹介いただいた中で、大日本図書の写真の子どもたちの表情がととてもすばらしくて、わくわく感が伝わってくるなということを感じました。それから、季節感ほどの発行者もとてもよくあらわされていると思うのですが、特に大日本図書、東京書籍の2者は、季節感、それから教えていただいたような体験活動、表現活動についてわかりやすいと感じました。また、東京書籍の終わりのほうにポケット図鑑や便利手帳などありますが、これも学習しやすいのではないかと思います。

小西委員 1、2年生の子にとっては、わくわくしたりであるとか、僕も私もやってみたいと思えるような教科書がいいなと思っております。そのような意味で、大日本図書がよくできているなと思いました。表紙のエンボス加工から始まって、植物や動物を大人が見てもおもしろいなと思うような興味深い角度や距離から撮られていたりであるとか、あとは、下巻の方ですが、夜の生活を懐中電灯で照らすページがあり、こういった子どもが大好きな仕掛けがあり、大日本図書が一步リードかと私は思いました。

中野委員 私も同じような意見ですが、大日本図書が写真が非常にきれいで、先ほど和田委員からもありましたが、非常に表情がいい写真が多いということで、私も大日本図書がいいかなと思います。

磯野教育長 私も意見を述べさせていただきます。

私は今回、オリンピック・パラリンピックの関係で、子どもたちの表情の中に、共生社会を意識した、外国人と写り込んでいる姿が教科書に入ってきたということは、まさに変わってきたのだなというふうに思います。日本文教出版、あと教育出版に多く取り上げられて、非常にいい試みだなという感じがしました。いろいろな友だちと生活していくということも一方では必要なのではないかという思いをしました。

そのような中で、やはり先ほどから出ておりますように、学校のスタートですので、発達段階に即した内容と、興味深く子どもたちが取り組むためには、実物大の図鑑などを取り込んでいた東京書籍は、非常によかったという思いがあります。

そして、皆さんから出ているように、もう一者とすれば、大日本図書もイメージを膨らませるような工夫が、本当に覗いてみたくなるような、いろいろな面で工夫されていることは、やはり大変子どもたちがわくわく感を持って取り組めるのではないかと、この2者がすばらしいという思いを持っております。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「生活」の教科用図書を決定をいたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「生活」の発行者は8者、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版社」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」

及び「日本文教出版」です。この8者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。
(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

大日本図書、5票。大日本図書が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「生活」の教科用図書は、「大日本図書」と決定しました。

《音楽》

磯野教育長 小学校用教科用図書「音楽」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「音楽」について報告します。

33ページをご覧ください。

はじめに、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における音楽科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成すること」です。

本市では、歌唱・器楽・音楽づくりをバランスよく学習できるようにしたり、〔共通事項〕を柱とした表現と鑑賞の教材を関わらせた題材構成を工夫し、児童が楽しく音楽に関われるようにしています。また、発達段階に応じて、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーや、箏・三味線・太鼓等の和楽器などの楽器が取り入れられ、演奏や音楽づくりの活動に意欲的に取り組んでいる児童が多いといった傾向があります。

従って、学習指導要領の音楽科目標、市の教育施策に照らして、内容が適切に取り上げられているもの、児童の発達段階や興味・関心、能力、さらには地域・学校の実態に対応したものなど、求められる教科書の特色を示しました。

次に、教科用図書を選定するための観点ですが、34ページに掲載しましたので、ご覧ください。

調査研究報告について、具体的に説明をいたします。

35ページをご覧ください。

初めに、「教育出版」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)については、学び合いについてのヒントを「まなびナビ」に示しており、協働的な学びを引き出すような配慮がなされています。

(3)につきましては、3年の35ページ、47ページにありますように、「もっとあそぼう」として発展的な活動が示しており、学びが深まる構成になっていることが優れている点であります。

「内容」(4)では、各学年巻末にまとめや楽器図鑑、器楽演奏形態などを載せてあり、個々の児童の興味関心、発達段階に応じたステップアップができるようになっています。

「教育芸術社」です。「新しい学習指導要領への対応」(1)では、学習のねらいを明確にし、題材ごとに見通しをもって学習を進められるよう配慮され、児童が主体的に学べる点で優れています。

1年から4年の裏表紙、5、6年の4ページ、「学びの地図」及び目次では1年間の学習内容が示され、児童が見通しをもって取り組むことができるようになっています。

(3)については、〔共通事項〕について、各ページの右下及び巻末に大切なポイントとして示されており、音楽的な見方・考え方を働かせながら学ぶことができるようになっています。

「内容」(1)では、6年の32ページ、「和音に含まれる音を使って旋律を作ろう」のように、表現するための適切な情報が示され、思いや意図をもって表現することができるようになっています。

(2)では、1年の46ページ、「せんりつのまねっこ」などに示されているように、系統性や発展性をもったものとなっており、レイアウトや表現方法に細やかな配慮が見られます。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、教育出版の1、2年がA B判、3年生から6年生はA 4の変型判になっています。教育芸術社は、全てA 4の変型判になっています。

以上で音楽科の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 音楽をはじめ芸術分野というのは、どうしても子どもたちの個人差が出やすい科目だと思っておりますが、そのような点を考えて、鑑賞という観点からの学びは、楽器の上手い・下手、できる、で

きないということにも関係なく、また、生涯にわたって楽しめる基礎を作るためにも大事な單元かと思うのですが、鑑賞という点から考えて両者を比較してみて、優れている点など教えていただければと思います。

仲村指導主事 鑑賞分野ですが、両者とも童歌や民謡、伝統音楽から世界の音楽まで、幅広く取り上げられています。教育芸術社のほうは、それぞれの音楽の良さや違いを捉えやすくするために、4年生56、57ページのように、ここで箏、三味線、三線など、比較鑑賞の学習を適宜設けています。

和田委員 もう1点なのですが、楽器の扱いという点で、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、それから和楽器などを学習すると思うのですが、子どもたちにとって見やすい運指の表示の仕方など、または逆に教えやすいということがあれば教えてください。

仲村指導主事 どちらも、運指などはわかりやすくなっています。1点、和楽器の箏のところなのですが、新学習指導要領で、中学年で和楽器を取り上げることになっております。4年生で「さくらさくら」を演奏してみようということで、両者とも取り上げられているのですが、教育出版のほうは縦の楽譜に歌詞がついており、楽譜の理解がしやすいように工夫されています。教育芸術社は、弦や座り方、爪の当て方の写真があり、演奏する際の子どもたちの手助けになるように工夫されています。

和田委員 続けて意見になってしまうのですが、一番最後のあたりに、両者とも君が代の記載があります。君が代について、教育芸術社のほうが、さざれ石だけではなくて、国歌を聴く時のマナーなどにも触れています。なかなか国歌、君が代についてのマナーというものは触れる機会がないかと思うので、これはなかなかいいんじゃないかなというふうに思いました。

それから、共通教材ですが、教育出版に関しての共通教材のところに、日本の歌みんなの歌という、半透明のような形で書かれているだけなのですが、教育芸術社に関しては、それがもう少し詳しい記載がありまして、古くから歌い継がれ、これからも歌い継いでいきたい歌という説明があります。共通教材と言われても、子どもたちはどのようなことを言っているのかわからないのではないかと思うのですが、その点、詳しくかみ砕いて、共通教材というのは、長く歌い継いできたのだなということがわかりやすく、教育芸術社がいいかなと思っております。少し細かい点な

のですが、どちらも本当に遜色ないというか、どちらでもという
ような感じがするので、そのような細かいところに目がたってし
まいました。

磯野教育長 子どもたちが見通しを持って、音楽活動を楽しく進めていこう
という中で、千葉市は県費移譲の際に専科教員がいない場合に、
非常勤講師を配置して、非常に合唱がすばらしいという評価を私
はしています。その中で、表現技能に関して、両教科書の中でど
のような工夫がされているかという点が、もしあったらお聞かせ
ください。

仲村指導主事 思考、判断、表現力をこれから高めていかななくてはいけない
というところで、一人一人の思いや意図を持って表現する学習活
動が展開できるように、本当に考えられて作られていると思いま
す。

音楽づくりを例にとると、各自が音のイメージを試行錯誤を重
ねながら、即興的な音づくりをし、今度はそれを組み合わせて重
ね方を築き、ステップをアップさせながら音楽を構成していくと
ころ、こちらのほうは本当に両者とも段階を踏まえてよくできて
いるなど感じています。

磯野教育長 確かに学習の狙いがしっかり持てている中で、子どもたちが
題材をきちんと扱っていけるという系統性や発展性から見ると、
すばらしい構成がされていると私も思います。そういった中でも、
やはり教育芸術社のほうがその点では優れているということで、
私の意見を述べさせていただきます。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2
年度に本市立小学校において使用する「音楽」の教科用図書の決
定をいたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「音楽」の発
行者は2者、「教育出版」及び「教育芸術社」です。この2者か
ら投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付して
ください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・
集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

教育芸術社、5票。教育芸術社が過半数を得ましたので、これ
を採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょう

か。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「音楽」の教科用図書は、「教育芸術社」と決定しました。

《図画工作》

磯野教育長 では次に、小学校用教科用図書「図画工作」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「図画工作」について報告します。

最初に、「千葉市の児童が必要とする教科用図書」及び観点について説明いたします。

37ページをご覧ください。

学習指導要領における図画工作科の目標では、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」と示されており、図画工作科の目標に照らし、表現、鑑賞の領域においての内容が適切に取り上げられているかという視点を設定しました。

また、「内容」(1)については、『市の教育施策への適合』と設定し、千葉市学校教育推進計画、千葉市学校教育の課題「21世紀を拓く」に適合しているか、(2)、(3)では児童の実態に合っているか、「千葉市小中特別支援学校総合展覧会」や「絵をかく会」なども参考になる、千葉市の児童にとって親しみ、なじめる内容になっているかという視点を設定しました。

調査研究報告書について、具体的に説明します。

38ページをご覧ください。

まず、「開隆堂出版」です。

「新しい学習指導要領への対応」(2)他教科との関連の視点として、3、4年上の10、11ページの「ふわふわ空気のつみ木」をご覧ください。子どもたちにとって身近な素材であるビニールを使って、身体全体で空気を感じながら楽しむ、理科と関連する活動です。

次に、(3)についてです。一例として、1、2年の下、「ぼかしあそびで」「ふしぎないきものあらわれた」をご覧ください。学習の目当てが3観点、枠内に書かれ、主となる目標が赤で示されています。目標を明確にできる学習の目当てと振り返りがどの

題材にも入っています。

次に、「内容」ですが、3、4年下の12、13ページでは、ふだん身の回りにある木々を見て、さわって、においをかぎ、音を聞くことなどさまざまな感覚を通して感じ取らせています。

安全についての指導については、いくつかの題材に「あんぜん」と記したコーナーがあり、注意を喚起しております。

総合的に見ると、児童が見通しをもって自分のイメージをもてるように構成されていると考えます。幅広い作品例や多様な取り組みを掲載し、さまざまな発想に対応できるという点で配慮されていると考えます。

「日本文教出版」です。

まず、「新しい学習指導要領への対応について」(1)の主体的・対話的で深い学びにつながる一例として、1、2年上、「ごちそうパーティーはじめよう」では、児童の作品例や多くの吹き出し、児童の表情や動きなどを掲載しており、よく工夫されています。

次に、(3)教科目標の適合についてです。一例として、1、2年下、「ひかりのプレゼント」をご覧ください。左ページ上に、学習の目当てが3観点に分けて書かれています。また、右下には、活動を通して考えてほしいことをどの題材にも設け、生活や社会に生かすための言葉を掲載しています。

次に、「内容」についてですが、5、6年下の24、25ページの「わたしの大切な風景」をご覧ください。自分の生活や思い出、身の回りにあることを振り返って、思いを深めて表現していくことは、豊かな情操を養うことにもつながります。

安全についての指導は、多くの題材に「きをつけよう」「かたづけ」と記したコーナーがあり、児童への注意を喚起し、よく配慮されています。

総合的に見ると、活動を通して考えてほしいこと、身につけるべき資質・能力について、児童自身が意識をもてるように構成されていると考えます。また、幅広く題材や表現方法を取り上げ、さまざまな発想、構想への対応や、生活と学びをつなぐという点でよく配慮されていると考えます。

なお、教科用図書の大きさ等については、2者ともA4判です。2学年ずつ上下本となっております。

以上で図画工作の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

中野委員 図画工作のうち、特に図画のほうですが、かなり才能の面があると思うのですが、私は全然絵がだめなのですけれども、この教科書図書を使って教えてもらったほうが、下手なりに絵が上手に描けるようになるのか、そのような違いがもしもあったら教えてください。

平澤指導主事 千葉市の課題としまして、絵をかく会、総合展の取り組みがあります。その際、いわゆる見映えのいい作品を作ろうとして、画一的な表現方法になるという傾向があると伺っております。また、対象や事象の形や色を、児童がどう捉えていいかわからないという課題があるのではないかと思います。

新学習指導要領にもあるように、生活の中の形や色と豊かにかかわり、それを捉える視点が重要ではないかと思います。その点に関しましては、両者ともしっかり示されております。

日本文教出版は、各学年で系統立てて、1年、2年生の上では36ページ、37ページですが、そのほかの教科書には34ページ、35ページに「ひらめきポケット」として、形や色の見方が示されております。

開隆堂出版にも、学びの資料として1、2年の下56ページのように、幾つかの教科書に示されていると聞いております。

中野委員 作品がいいかどうかの問題として、やはり形をとったりなど、それが僕なんか全然できないんですけれども、そのようなものは仕方がないのでしょうか。

平澤指導主事 両者とも、巻末にさまざまな表現技法だとか、用具の扱いも詳しく掲載されておまして、その辺も参考になるのではないかと思います。

小西委員 私も両者を比較させていただいて、双方とも内容が非常に充実していて、本当に遜色がないと思っております。千葉市の課題として、先ほどもおっしゃられましたけれども、どうしても見映えのいい作品をつくろうとしてしまって、主体的な活動が十分にできていないという点があるかと思うのですが、子どもたちが個性を大事にしたり、創造性を大事にするという部分で、どちらのほうの方がより良いというものがありましたら教えていただきたいです。また、先生方にとっての教えやすさだったり、使い勝手のよさという点で、何かあれば教えていただければと思います。

平澤指導主事 主体的な学びという点ですが、両者とも3つの育てたい資質・能力に対応して、題材の目安を示しております。この辺から

主体的な学びというか、できるのではないかと思っております。

また、指導者が扱いやすい教科書とありました。今お話ししたことと重なるかもしれませんが、開隆堂出版には題材の目当てを示している3つの柱があるのですが、そのうち特に重点的に育てたい力には下線を引き、赤で色を変えて、わかりやすく示していると、調査員のほうから伺っております。

また、日本文教出版は、活動を通して感じたり考えてほしいことを、教科書の下の方に双葉のマークにより示しております。これは、学びを生活や社会に活かして、よりよい人生を送るためのポイントが示されておるのではないかと思います。

あともう1点ですが、先ほど申し上げましたが、開隆堂出版のほうには、「かたづけ」「あんぜん」と、このような項目がいくつかの題材に示されております。日本文教出版のほうには、「かたづけ」「きをつけよう」という項目が多く、題材に示されております。

磯野教育長 私から意見を述べさせていただきます。

先ほど、音楽では非常勤講師を配置して、合唱等についていろいろな形で成果が上がってきたと申し上げました。ところが、やはり私どもも今回、次の段階では、やはり今若い教員たちが次の専門的なものとしては、図工を何とか扱ってほしいというような状況も伺っているところです。

そういった観点で読ませていただく中で、やはり開隆堂は指導内容が詳しく記載されているなというところがありました。これは一方、今、調査員からあがったように、それを余り詳しく書き過ぎたことによって画一的な作品ができているのではないかという、ご指摘なのかもしれませんけれども、その辺がどうなのかなということ。

教科で求めている想像性を膨らませるという観点で言うと、日本文教出版のほうが、想像性を膨らませるように自分で考えていけるというようになっているのですが、どうか。いずれにしても、この主体的な学びも画一的な作品も、どちらかという、もう教科書ではフォローできなくて、むしろ、先ほどから申し上げたように、私は、ここも反省ですけれども、やはりもう一回、指導者に対して、どういった指導計画を作って、この教科書をうまく授業に活かすかということが観点になってくるかなと思います。

その中も、唯一違ったのはQRコード、今日は冒頭申し上げて

いますけれども、QRコードがあるか、ないかということがですね、基本的には出てきます。この辺をどのように活用していくかということも、今後、教科では考えなければいけないという点です。

そして、やはり系統的に題材を配列して、子どもたちが創造性豊かな作品を作っていくという観点から、私は決めたいと考えております。

和田委員 悩んでおりましたですね。日本文教出版の「ひらめきポケット」というのがとても印象的で、各学年によって視点が変わるのが非常におもしろいですね。これは、技術がある、なしにかかわらず、とても想像力を膨らませてくれるのではないかなと思いました。「さわる」「つなげる」「分ける」など、いろいろな言葉によってその視点が変わるというのは、とてもおもしろいなと思いました。

それとあと、主体的な学び、先ほどから出ていますけれども、それと日常、身の回りのことへの応用という点でも、段階がわかりやすい、リード文のところでもとてもわかりやすく出ているので、日本文教出版はすばらしいなと思っています。一方で1つ気になったのが、先ほどご説明にありました右下の双葉のマークのところで、これは、子どもたちから自主的に出てくるはずの言葉がここに出てしまっているのではないかなと、考えさせる必要がなくなってしまうのではないかなというふうにも感じられるんですが、その辺はどうでしょうか。

平澤指導主事 こういう活動を通してこのような感じ方、考え方をするという1つの例ですので、これ以外にもいろいろとあるかなと思えます。

和田委員 教師の指導力次第だということで、授業の目的としていただきたいという感じがいたしました。ありがとうございます。

千葉委員 両方の教科書を見せていただいて、日本文教出版さんの写真や絵は、子どもたちが今動いているのをパシッと撮っているようで、飛び出てくるようです。これを見ながら子どもさんたちが勉強すれば、何か笑顔になりながら引き込まれていくような感じがすると思えました。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、その他、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「図画工作」の教科

用図書を決めます。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「図画工作」の発行者は2者、「開隆堂出版」及び「日本文教出版」です。この2者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

開隆堂出版、2票、日本文教出版、3票。日本文教出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定したいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「図画工作」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定いたしました。

《家庭》

磯野教育長 次に、小学校用教科用図書「家庭」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校「家庭」について報告します。

39ページをご覧ください。

はじめに、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明します。

学習指導要領における家庭科の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のおり育成することを目指す。」とあります。

本市の児童について、家庭科においては授業には意欲的に取り組むものの、学習で習得した知識及び技能などを実生活に活用したり、家族や地域の人々と関わり、社会に参画しようとする力が十分ついていなかったりといった傾向があります。日常生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れることや、基礎・基本的な知識及び技能を明確化し、題材のつながりや中学校との連携を意識した指導内容の工夫改善に当たることが課題となっております。

従って、2年間の学習の見通しをもち、基礎的・基本的な知識や技能を活用した問題解決的な学習活動や、学んだことを活用し

家庭・地域とつながり、生活をよりよくしようと工夫できる特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

教科用図書を選定するための観点ですが、40ページに掲載いたしましたので、ご覧ください。

調査研究報告書について、具体的に説明します。

41ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(1)では、4、5ページの学習の進め方に見られるように、ステップ1、2、3の流れで学習が進められています。ステップ1では「話し合おう」で、生活の中から課題を見つけ、ステップ2の「調べよう」では栄養のバランスを調べ、「やってみよう」で実際に調理をし、ステップ3の「深めよう」で家庭実践につなげていくというような、問題解決的な思考が身につく点が優れています。

「内容」(2)においては、2年間の家庭科の学習の見通しを立てられるよう、よく工夫されています。

3ページの見開きの「成長の記録」も、自分の学習の足跡を残し、振り返りができる記録表になっています。

「内容」(3)では、122ページからの「あなたは家庭や地域の宝物」の題材で、家庭や地域との関わり方が具体的に紹介され、理解しやすくなっています。また、各所に伝統文化を紹介する箇所には「日本の伝統」マークがわかりやすく表示され、よく配慮されています。

続いて、「開隆堂」について、「新しい学習指導要領への対応」(1)では、124、125ページのように、写真やイラストから児童の興味関心を高め、課題を見つけ、対話することにより深い学びにつながる工夫がされています。

(3)では、学習指導要領の目標に照らし、家族や家庭生活、衣食住、消費や環境などに関わる生活の営みに係る見方・考え方、1、2ページをご覧ください。この見方、考え方を、1、2ページのように4つの視点で捉え、よりよい生活を営むための工夫が考えられるよう、よく配慮されています。見方・考え方が4つのマークで表示されており、常に家庭科の視点で学習を進められるよう工夫されています。

また、「内容」(1)においては、43ページのような、学習し

た内容と関連した職業についている方々から、仕事について学び、いろいろな職業があることを知るキャリア教育につながるよう工夫されています。

そのほか、16ページで食物アレルギーに触れ、食育などに関連する内容が適切に取り上げられています。

(2)では、題材がストーリー性を考慮して配列されており、基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開されています。児童の思考の流れに沿うよう、2年間の学習を振り返り、中学校の学習へのつながりがわかりやすく示されているなど、よく配慮されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍はA4判、開隆堂はAB判です。両者、5、6年で1冊となっております。

以上で家庭科の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 2者ですので両者の比較ということになるのですが、開隆堂のほうが、なぜ何々をするのか等と、とても当たり前なことなのに、例えばなぜ縫うのだらうなど、そのような問いかけから始まっていて、子どもたちの興味を引いてくれているなど感じました。

それと、前回も伺ったような気がするのですが、現行教科書もそうかと思うのですが、季節の取扱いなのですが、開隆堂のほうは冬が先に来ていて、暖かくするための工夫がされていて、後半に涼しくするための工夫が来ています。東京書籍は、その逆になっているのですが、特に授業を進めていく上での不都合な点などあるのでしょうか、どうでしょう。細かいことなのですが、教えていただきたいと思います。

豊川主任指導主事 1点目のなぜという問いかけが多いという点では、両者とも問題解決的な学習のステップを意識した構成になっておりますが、比較的、開隆堂のほうは必ずそのようななぜという疑問から入る。特に、クッキングの調理の場面でも、開隆堂の10ページのように、なぜ調理をするのだらうというところから入る場面、東京書籍のほうは、14ページのように、同じ題材でも目的や手順を考えようということで、多少の違いは出ております。

もう1点の季節のことですけれども、大体、小学校の教員は、教科書に載っている順番に指導をしていきますので、どちらが先になろうと関係ないのと大きな違いはないと報告を受けており

ます。

和田委員 特に、学習時期と実際の季節がずれてしまって、子どもたちの実感が湧かないなど、そのあたりもうまく調節しているということなのでしょうか。

豊川主任指導主事 大体、時数どおりに計画的に進めていくと、ちょうど寒い時期に寒い題材、寒さに対する快適な過ごし方というところに当たりますので、季節感がずれるということはないと聞いております。

磯野教育長 質問が終わりましたので、意見を述べさせていただきます。

まず、東京書籍は、やはり自分自身が調べて、考えている点については、よくできているなという認識を持ちました。そして、開隆堂は、写真の選定など、エンジンの調理もそうだし、運針のところそうですけれども、いろいろな写真の構成が非常にきれいで見やすく、その点の鮮明さは優れていると感じました。

あとは、今日ずっと言っていますが、QRコードをどのように使うかという問題はあります。今回調べた中では、やはりQRコードはかなり使いやすいという感じがしました。

いずれにしても、本の軽量化等も含めて、この2者ですけれども、開隆堂のほうがより優れているということでございます。

中野委員 私も同じような意見ですが、写真が開隆堂の教科書の方がわかりやすいかと思えます。東京書籍のほうは少しわかりにくいのですけれども、開隆堂のほうははっきり出ていますし、そこだけではありませんけれども、全体に写真の使い方が上手かなと思えますので、私は開隆堂のほうがいいと思えます。

小西委員 私も皆さんと同じなのですけれども、両者とも学習目標が最初に書かれてありますけれども、開隆堂のほうが目立つ、できる、活かすという点で、子どもたちにとってわかりやすいというように感じました。

あと、先ほど和田委員がおっしゃっていましたが、なぜという形で返すことで、子どもたちが自ら気づく、主体的に気づくという点で配慮されているかなと思いたしたので、私も開隆堂がよいかと思っております。

磯野教育長 では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「家庭」の教科用図書を決定いたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「家庭」の発行者は2者、「東京書籍」及び「開隆堂出版」です。この2者か

ら投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 ただいまの投票結果について報告いたします。

開隆堂出版、5票。開隆堂出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「家庭」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定いたしました。

《保健》

磯野教育長 小学校用教科用図書「保健」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校体育科「保健」について報告します。

42ページをご覧ください。

最初に、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」とあります。

本市の児童の体力・健康安全面については、体力は全国的な調査結果と比較して一部の項目を除き、平均よりも上回る傾向があります。しかしながら、意欲的に体力づくりに取り組むといった姿勢に欠ける児童や、朝食の喫食、歯磨きなどの規則正しい生活習慣が身についていない児童もいることが課題となっています。

従って、「学習のねらいが明確に示され、児童の主体的な学びや日常生活への実践を促すように編集・構成されているか」という視点で教科用図書を選定する必要があると考えました。

次に、選定するための「保健の観点」について説明します。

まず、「新しい学習指導要領への対応について」から「内容」では、第二次千葉市教育推進計画や「21世紀を拓く」など、「市の教育施策への適合」という観点など4観点です。

そして、「造本等」では、製本がしっかりしているか、重さなど児童が扱いやすく配慮されているかという観点です。

では、調査研究報告書について具体的に説明させていただきます。

44ページをご覧ください。

まず、「東京書籍」についてですが、「新しい学習指導要領への対応」(1)では、「学習の進め方」の4つのステップに見られるように、教科書全体が保健の見方・考え方を働かせ、児童が心身の健康保持増進を行うための資質・能力が育成できるような、段階的な構成になっています。

(2)では、3、4年の13ページなどにあるように、家庭科や特別の教科道徳との関連を図り、相互に知識を補完しながら学習できるように、優れた構成になっています。

また、「内容」(1)では、絵や図、写真を多用し、自分の成長を実感し、命を尊ぶ態度を養うことができるよう、工夫された構成になっています。

さらに、(3)では、養護教諭や栄養教諭、学校医など学校内外の人材を有効活用できるように配慮された、優れた構成になっています。

「大日本図書」です。

「新しい学習指導要領への対応」の(3)では、各小単元で、言語活動が活発に行えるよう、話し合い活動の項目が設定され、工夫された構成になっています。

また、(4)の3、4年の20ページなどにも見られるように、問題を設定し、内容を振り返りながら、児童が知識・技能を定着できるように工夫された構成になっています。

さらに、「内容」(3)では、学習したことを家庭や地域で活用できるように工夫されています。

「文教社」です。

「内容」(1)で、3、4年の生7ページ「1日の生活とリズム」では、24時間の時計を模した画面構成で、運動、食事、休養睡眠などの生活リズムが健康と密接に関連していることがわかる構成になっています。

続いて、「光文書院」です。

「新しい学習指導要領への対応」(2)、3、4年の11ページなどに見られるように、ほかの教科で既に習った事項やこれから

学習する内容、また、特別の教科道徳との関連が図られており、工夫されています。

また、「内容」(1)では、3、4年の「けんこうな生活」で目の大切さを、5、6年の「病気の予防」などで危険ドラッグなど今日的な問題を提示し、健康への理解や生命尊重の態度を養うことができる構成となっています。

最後に、「学研教育みらい」です。

「新しい学習指導要領への対応」(1)では、3、4年生、5、6年生とも、「楽しく学ぼう保健の学習」で見られるように、教科書全体が1時間で、「つかみ、考え、調べてまとめ、深める」といった課題解決学習の進め方になっており、児童に主体的・対話的で深い学びを導くような優れた構成になっています。

また、「内容」(1)では、「心の健康」において、不安や悩みに対する対処方法を考えることで、よりよく生きようとする心を育てる、優れた構成になっています。

さらに、「内容」(4)では、「もっと知りたい・調べたい」に見られるように、発展的な学習を進めていけるように工夫されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、大日本図書はA B判、他の4者はA 4判になっております。いずれも、3、4年と5、6年で1冊ずつになっています。

以上で体育科「保健」の報告を終わりにします。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 まず、確認をさせていただきたいのですが、保健に割く授業数なのですから、3、4年で4時間、5、6年で8時間でしょうか。

中村指導主事 3、4年生、2学年間で8単位8時間、5、6年生も2学年間で16時間、したがって、目安として3、4年が1学年4時間、5、6年は8時間という形になります。

和田委員 それを考えると、それぞれ8時間、16時間でこの1冊ずつを学ぶということになるので、ノートなども別に作らず、おそらくここに書き込んでいくような指導の仕方なのかと思えます。そういう観点から見て、これ1冊で子どもたちも完結できるような学び方ということを考えると、東京書籍か学研かと思うのですが、この2者を比較していただいて、具体的に違いですとか、教えやすさ、学びやすさの点で何かあれば教えていただきたいので

すが。

中村指導主事 選定委員会の協議のほうでは、東京書籍と学研教育みらいの教科書について、各章はじめに、学習の課題がつかみやすく、児童の関心を持たせる工夫が両者ともされていると。

また、東京書籍のほうは、学習の進め方の4つのステップに見られるように、教科書全体が保健の見方・考え方を働かせ、児童が心身の健康保持・増進を行うための資質・能力が育成できるような、段階的な構成になっております。

一方、学研教育みらいの教科書のほうですが、教科書全体が1時間で、つかみ、考え、調べてまとめ、深めるといった課題解決学習の進め方になっており、児童に主体的・対話的で深い学びを導くような構成になっております。

中野委員 私も、東京書籍か学研か、どちらかなと思うのですけれども、前回の選定の時にもお話したのですけれども、体の発育・発達のところで、これは性教育につながっていくのでしょうけれども、学研みらいの方が、他の教科書と比べてもわかりやすいかなということです。

それから、学校医、学校薬剤師が出て、解説をしておりますけれども、私は、学校医というのはもっともっと積極的に学校に関係すべきだと思っていますので、そのような意味からも、学研みらいの教科書のほうが、私は推薦できるかなと思っています。

小西委員 私も、同じく学研と東京書籍で悩みまして、学研は学習の進め方が非常にわかりやすいなと思いましたが、東京書籍のほうは、先ほど和田委員もおっしゃっていましたが、ワークシートの形式になっているので、先生方も使いやすいでしょうし、子どもたちもより自分のこととして考えやすいのかなというふうに感じました。

その中で、東京書籍のほうは、病気の予防の部分でインパクトの強い写真やイラストが掲載されており、薬物や飲酒、喫煙などの害が子ども達に直接的に非常に伝わりやすい形で載っているなど考えまして、東京書籍がいいと思っています。

磯野教育長 私も意見を発表させていただきます。

まず、お互いに学びやすく、学習をまとめて2年間の振り返りができるようになっている中で、東京書籍のほうは非常にいい紙を使って、少し多いのですけれども、今までの学習のまとめがしっかり書き込める場所があるなと思いました。

やはり、今回も、今、小西委員からもありましたけれども、千葉市のオリパラを契機に、喫煙防止がありますので、このような内容も的確に取り扱っておられると思います。

学研みらいは、逆に、心の問題についてしっかり書き込まれているので、この点がどちらかになるかというようなところで、投票したいと考えています。

私のほうは以上です。

千葉委員 僕も東京書籍の方がいいなと思ったのですが、その理由は、これって定期的にやる授業じゃないということですから、自分が昔々を思った時に、ノートと教科書というより、ここで書き込んでいける形式があると、自分で思い返して、思い出しができると思うのです。ですので、そのような意味では、ここにやったものが、筆跡として残っているというのは、子どもさんたちにとって非常に心強いのではないかなと思いました。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「保健」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「保健」の発行者は5者、「東京書籍」「大日本図書」「文教社」「光文書院」及び「学研教育みらい」です。この5者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。（投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告）

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

東京書籍、4票、学研教育みらい、1票。東京書籍が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「保健」の教科用図書は、「東京書籍」と決定しました。

《英語》

磯野教育長 小学校用教科用図書「英語」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 小学校外国語科「英語」について報告します。

47ページをご覧ください。

はじめに、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における外国語科英語の目標は、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することです。

本市の児童の意欲については、これまで児童は、ゲームなどを通して楽しい英語活動をしてきましたが、2年前より意欲がやや低くなっています。その原因の一つは、学習時間や学習内容が増え、学習の難しさを感じていることと考えます。また、英語を使うことへの抵抗感があり、進んで英語でコミュニケーションを図ることは難しいという傾向があります。

教員が主体となって指導しやすく、児童が段階的に学習に取り組みながらコミュニケーション能力の向上を図るために、内容が系統的・発展的でスモールステップになっており、自主学習がしやすいといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えております。

次に、調査研究報告書について、具体的に説明いたします。

まず、「東京書籍」についてですが、「内容」(1)では、5年の38ページをご覧ください。本文に当たるユニットを、スターティングアウト、ユアターン、エンジョイコミュニケーション、オーバー・ザ・ホライズンで構成し、聞く・話す学習を十分した後、コミュニケーションにつながるようにしています。3つのユニットが終わるごとに、チェック・ユア・ステップスで学んだ英語を使い、振り返りを行うことで学びを確かめることができるなど、優れた構成となっています。

「開隆堂出版」についてですが、「内容」(1)について、5年の68ページをご覧ください。レッツ・リッスン、レッツ・チャイツ、レッツ・リッスン、レッツ・プレイと単語の習得から表現の習得へ、そして無理なくゴールの自己表現活動(レッツ・トライ)につながるように構成されております。裏表紙には、CAN-DOマップが示されており、さらに、レッスンの終わりには振り返りの欄が設けられております。

「学校図書」についてですが、「内容」(1)では、5年の82

ページにおいて、1レッスンの構成は、導入のページ、目標表現を学ぶ2から3のセクション、そしてまとめのユーズ・アンド・チェックで構成されております。また、ユーズ・アンド・チェックでは、このレッスンで学んだ目標表現を用いての「聞く」・「話す」・「書く」活動を行い、ある程度まとまった英文を読む活動を行うことで、学びを確かめる構成となっております。

「三省堂」についてですが、「内容」(1)では、4技能5領域がバランスよく配置されています。まず、自身の力を知ることから問題を発見し、問題解決に向けて学習する構成になっているので、個々で目標をもって学習に取り組むことができます。どの単元でも音声中心から学び、5年の49ページのように、大単元の最後は発表を行うという流れを重視し、3段階のスモールステップで工夫されており、優れています。

「教育出版」ですが、「内容」(1)では、5年の30ページ、「カレンダー作り」のように児童の興味関心に合った題材を取り扱い、単元ごとに3つの観点が相互にかかわるよう、児童が意欲をもって言語活動ができるよう配慮されています。それぞれの単元が音声中心のインプットからアウトプットへと、スモールステップで進み、最後の言語活動につながるよう配慮されています。

「光村図書」についてですが、「内容」(1)では、ユニットは「ホップ」「ステップ1」「ステップ2」「ジャンプ!」の順に構成されており、見開きページを大きく使ったイラストやアニメーション映像のストーリーから言葉や表現を聞き、聞き取った内容を使った活動へつなげられるようにしています。さらに、6年100ページなどでは、慣れ親しんだ言葉や表現を使って思いを伝えたり、書き表す活動を取り入れたりすることで、ユニットでの学習をまとめられるよう、よく配慮されております。

「啓林館」についてですが、「内容」(2)では、5年の11ページ、各単元で必要となる語彙や表現などが書かれているので、児童が自ら調べられるように工夫されています。

なお、教科用図書の大きさ等につきましては、東京書籍と学校図書がA4判、その他の5者はAB判になっています。また、東京書籍のみ、別冊を加えています。

以上で外国語科「英語」の報告を終わります。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

和田委員 大変迷っておりまして、わからないことがたくさんあります。

初めての教科ということもありますし、ここで採択したものを今後4年間は使うということを考えますと、非常に責任が重いなど考えています。

まず、教えていただきたいのが、ノートをどのように活用するのか、子どもたちが別にノートを作って学習をするように、書くことが主になるようにされるのかという点と、それから、評価をどのようにするのかという、この2点、教えていただけますでしょうか。

丸山指導主事 まずノートに関してですけれども、現状、多くの学校での事例では、教科書へ直接記入する、もしくは教員のほうが準備したワークシート、プリントのほうへ記入するといったことが主な活動となっております。中学校のように、児童が一定のノートを準備して、授業のポイントを記入していくということは想定しておりません。

また、評価についてですけれども、学校では自己評価、振り返りカードということで、別紙で評価したものを書きためていき、評価材料をためていきます。また、教師の観察、それからこれからは学校のテストやALTなども加わることと思いますが、会話等できるようになったことを、ペーパーテストとともにパフォーマンステスト等を併用して評価を出すということです。

和田委員 今までとは、教科になるという点、それから外国語活動ではなく、外国語という教科になるということで、大分大きな違いが出てくると思うのですが、3、4年生からの外国語活動からの接続という部分と、それから中学への接続という部分で、教科書を見る観点が少し違ってくるのかと思うのですが、どちらのほうがより重要だと考えますでしょうか。

丸山指導主事 どちらが重要かという点、お答えになっていないかもしれませんが、どのステージも大事だということ、観点という点で申し上げますと、3、4年生までで話す・聞くというところ限定して学びます。そして、先ほど教育指導課長から説明がありましたが、若干意識が低下しているというところにつながってくると思うのですが、小学校5、6年生より時数が増えまして週2時間、また、3、4年生の内容に加えまして、読む・書くという活動が加わってまいります。時間と、また内容の読む・書くが5、6年生には加わってきているという観点を持ち、ご覧いただければと考えます。

中野委員 求められる教科用図書の特徴の中に、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの、基本的には総合的にバランスよく育成するというのがありますけれども、今まで、中学校から英語が始まって、随分長い歴史がありますよね。その中で実際に、今まで中学生、高校生にこれがうまく目的どおりいっているとは思えないのですけれども、ましてや小学生でこれができるのでしょうか。できると思ってよろしいのですか。

丸山指導主事 これはできると考えているとお答えしたいと思います。まさに皆様ご覧になったことがあるかとは存じますが、現在の小学生は、特に話す・聞く力というのは、私が拝見していて、自分が恥ずかしくなるくらい、よくできております。もちろん、苦手意識があったり大変苦労している児童もおりますが、3年生からいろいろな活動経験を通して、非常に力をつけてきていると考えております。先ほど申し上げました、書くことについては、皆様がイメージするのはすごく難しいことだと思うのですけれども、小学校ではアルファベットの文字が書ける、あと、単語や英文に関しましては書き写すことができるというところまでですので、そこまで欲張ってはいないということで、中学校へのつながりに結び付けていければというふうに考えます。

中野委員 和田委員の話ともつながるのですけれども、やはりこれ、実際には教える先生も専門の先生ばかりじゃないですよ。その中で、これを実際に、なかなか実践するというのは難しいと思いますけれども、努力をしていただくのは当然なのですが、やはり中学校の英語のほうにスムーズにつなげるなど、何か目標を1つに絞ったほうが、私は実際には効果が上がるような気がします。全ての能力をつけて、が理想なのですが、実際には現実的にどうかと、私は疑問に思います。意見だけです。

千葉委員 僕も中野委員と同じように思うのですけれども、世間では、日本人は何年英語習っているのということをよく聞くじゃないですか。そうなった時に、やはり何か得意なものを3年、4年、5年、6年で、英語が好きなんだというふうに思わせてあげると、その後の中学校へ行ったときに、もう少し勉強してみたい、外国人と会話してみたいとか、そこに持っていくまでの教育が必要だと思いますし、あと、この英語を教える先生というのは日本の方ですよ。そのようになった時、やはり先生のスキルがかなり影響してきてしまうと思うのですけれども、その辺で難しいと思う

のですが、もし、明らかに大丈夫かなというような先生なんかいらっしやったら、何か対処方法などはあるのでしょうか。

丸山指導主事 本日も午前中、研修を持ってまいりましたが、やや高齢な、ベテランの教員も参加しておりまして、非常に意識が高いです。

おっしゃるとおり、現段階ではまだ十分でない指導力の教員もおることはありますが、そういった職員も研修を通して指導力を上げる機会をもつなど取り組んでおりますし、また、教科書会社さんのほうで充実したデジタル教材というのをご準備いただいておりますので、現在は文部科学省よりきているものを活用していますが、今後は新しいものを使いながら、研修等を通して指導力の向上を図り、授業に還元していければと考えています。

小西委員 今の質問の続きになってしまうのですが、いろいろと研修の意識が高いところは、それだけ不安を抱いている先生がたくさんいらっしやるということだと思っておりますけれども、各者の教えやすさであるとか、若い方から経験豊富な方まで、安定した授業ができるという観点で、どこの者がいいというところがあれば教えていただければと思います。

丸山指導主事 現在の小学校教員が教えやすいであろうという観点で申し上げますと、まず教科書1ページが、基本的に授業1時間単位となっているなど、また、指導しやすく工夫されていたり、基礎・基本から活用、また、言語活動の充実を教員の方が意識して授業を実施しやすい構成となっていることが重要だと考えます。

以上のことから、ページ配当や構成などにより授業を進めるペースがつかみやすい東京書籍と、易から難への配列によるスモールステップで、無理なく自己表現活動につながられるよう配慮されている開隆堂出版が優れているという報告をいただきました。

鶴岡教育指導課長 先ほど千葉委員より、教員の資質・能力のお話がございました。教職員もまだまだ力量が…ということは正直あるということは先ほどお話いたしました。その中で、例えばご承知のとおり、ALTを派遣し、支援をしていただきながら、サポートしてもらおうような体制であったり、または、行政区6区に2人ずつ英語指導の支援員を派遣して、各担任の相談にのったり、指導・助言に当たったり、といったことをしながら力量アップを目指していたり、よく、工夫をさせていただいていることをお知らせいたします。

和田委員 小西委員がおっしゃっていらしたように、やはり教えやすさ

というのが当然学びやすさにつながりますので、この部分大事なと思うのですが、正直言って、授業がどのように展開されていくのか、この教科書をもとにというのが想像できない。その一要因としては、デジタル教材が、多分各者いろいろとあると思いますので、そのデジタル教材を織り込みながらの授業展開というのがとても想像しにくいのです。デジタル教材を使いながらの授業、やりやすいというような特徴のある教科書もあるかもしれませんが、いかがでしょうか。

丸山指導主事 調査員が、全部のデジタル教材を拝見したわけではございませんで、ここが優れているという報告は正直受けておりませんが、イメージが湧きづらいということで、デジタル教材を現在使っているもの等の特徴を申し上げますと、やはり豊富な音声教材や映像資料が入っております。例えば、余り海外経験のない小中の学級担任等がですね、そちらを流しながら映像を見せたり、音声に触れさせたりということで、主に聞く活動から入り、それを踏まえて話すことに備えさせて、次にレッスンの最後に、まとめとして読んだり書いたりという、聞く・話すから正しく読む・書くにつなげていくということが、ステップの基本となります。

和田委員 こちらの教科用図書にだいぶデジタル教材で補完される形で授業が展開されていくというふうに解釈してよろしいでしょうか。

磯野教育長 私のほうで今のご意見を踏まえて、報告いたします。教育委員の皆さんから指導者の件でもご心配いただきましたけれども、これは今回、私どもが全国に先駆けて英語、外国語活動を取り組んできて、子どもたちの興味・関心を高めて、これまでALTを使ってやってきました。

今回、国の学習指導要領の改訂で、こういう状況になりました。確かに、これから専科教員を増やしたり、免許を取らせるという仕組みにしていくべきですけれども、そういった中で私たちがやるべきことは別に置いておいて、そこはしっかり行政のほうで取り組んでいかなければいけないと思います。私も外国語活動をずっと担当していましたのでどうしても楽しみながらも、教科として評価しなければいけない状況から、やはり次の学年につなげていかなければいけないということを考えると、5年生から6年生、6年生から中学生というような流れがやはりしっかりわかるようになっていくかという点について見てみると、やはりその辺は、

さきほどのスモールステップじゃないですけども、開隆堂が書かれているというような状況はよくわかりました。

あと、書くということは、先ほど私の感覚が多少ずれていましたけれども、書き写すだけでいいという感覚で、本当にみんなそれで済んでいるのかなと、正直ですね、疑問を持ちました。今の子どもたちはもっと先に行っているという状況があるので、この中にそれぞれの教科、書き込めるようになっていて、4線譜が載っていますけれども、いろいろな工夫されて載っています。

でも、もっとその次元を超えて、例えば千葉市の先ほど言ったように、英語・外国語活動を取り組む時に、千葉市版の指導計画を作って、これまでもALTと協力してやってきたわけです。その辺でもっと優位性をここに載せていかないと難しいので、さっき言ったように、これにデジタルの教材を使っていく中で、どうやってこれを使って学習していくかということ、何度も今日は冒頭から述べていて訳ないのだけれども、そこをしっかりと指導計画の中に織り込むことが、やはり先ほど来、委員の皆さんが心配している指導者の懸念を払拭するにはそこしかないかなというふうに考えます。

ですから、聞く・話すから、単語が700くらい増加するものを覚えていく必要があるので、教員もかなり研修を積む中で、みんなが楽しく次へつなげていくという点を重視して私は決めたいと思っています。

中野委員 教えやすいという観点からは、東京書籍と、それから開隆堂ですね。2つを詳しく見ますと、東京書籍が写真や絵がとても多いですよ。本来の本文と、こんなに写真などが無くてもいいような気がするのですが。開隆堂のほうは、そのような意味では、ぱっと見たときわかりやすいような気がします。確かに、あまり絵が多くて、その中に英語が出てくるのは少しなので、わかりやすいといえばわかりやすいのしょうけれども、逆に何か意識がこの絵のほうにいつてしまって、英語のほうにいかないような気がします。私の意見です。

和田委員 質問と意見と両方なのですが、東京書籍のピクチャーディクショナリーというものがありまして、私たち世代から見ると、こういうものがとても扱いやすいように思えるのですが、この使い勝手を教えてください。それから、やはり東京書籍の中で、先ほどから教育長も話題にされていますけれども、QRコードなので

すが、インタビューという割と大きいスペースの中でQRコードが使われていて、その内容を聞かないと、ここに書き込めないわけですね。

おそらく千葉市の授業の中では、来年度、授業の中でQRコードを読み取れるようなタブレットが全児童使えるという段階ではないと思いますので、そうするとこの部分は抜いて授業を進めていくようなことになるのかなと思うのですが、その意義について教えてもらえますでしょうか。

丸山指導主事 まず、ピクチャーディクショナリーに関してですけれども、調査員も申しでしたが、やはり現在、短時間学習ということで、朝の時間などを活用して調べ物をしたり、もちろん45分授業の中でも単語調べなどがありますが、そういった時にそれをぱっと開いて調べられると、わかりやすいということの利点はあるという意見を頂戴しております。

また、QRコードについてですけれども、先ほども申し上げました、デジタル教材を全て拝見しておりませんので、これは何とも言えないのですが、必ずしもQRコードを用いてのみしか聞けないかという、授業の中で、学校の教室の中で教員が再生をして、皆に聞かせることができるというような設定になっていることが望ましいのかなと考えます。

和田委員 続いて意見なのですが、中野委員もおっしゃいましたように、東京書籍の教科書、とても写真や絵が多くて、子どもの興味を引くような部分はあると思うのですが、一方で、教員が教える時に、どのようにそれを組み合わせて、習慣化していったらいいのかというのが伝わってこないというふうに感じました。

東京書籍、それから開隆堂、私は光村図書もわかりやすく、教えやすいのではないかと感じているのですが、中学への接続ということも考えなくてはいけなくて、教科になったということも考えると、やはりスモールステップで子どもたちにしっかり力がついていって、さらにどのような教員でも教えやすいということを考えて、開隆堂か光村図書かというふうに思っているところです。

小西委員 私自身、読み書きができて話せない日本人英語で非常に苦労してきた一人なのですけれども、やはり英語自体を学ぶということではなくて、英語で何ができるのか、英語をツールとして積極的に、多少文法とか語句を間違えていても、積極的に自分から

話していくということ子どもたちにはしっかり身につけてほしいなと思っています。その視点が冒頭からしっかり出ているのが東京書籍と開隆堂かと思っています。

この2者で迷っているのですが、東京書籍のピクチャーディクショナリーは使いやすいだろうと思いますし、子どもたちが自主学習するのに適しているだろうと感じます。

また、東京書籍の中のストーリータイムに絵本の紹介があるのですけれども、ネイティブの方が日常生活上自然に使う語彙というのは、このような絵本や短い物語の中にたくさん含まれていると思います。単に単語自体を覚えるのではなく、子ども達に全体の文脈の中で、単語の使い方や意味を捉えてもらおうという点で、東京書籍は優れていると思いました。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問等がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「英語」の教科用図書を決定します。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「英語」の発行者は7者、「東京書籍」「開隆堂出版」「学校図書」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」及び「新興出版社啓林館」です。この7者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

東京書籍、2票、開隆堂出版、3票。開隆堂出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「英語」の教科用図書は、「開隆堂出版」と決定いたしました。

《道徳》

磯野教育長 では、最後に。小学校用教科用図書「道徳」に係る調査結果について、教育指導課長の説明をお願いします

鶴岡教育指導課長 「特別の教科 道徳」について報告します。

53ページをご覧ください。

はじめに、「千葉市の児童に必要とされる教科用図書」について説明いたします。

学習指導要領における特別の教科「道徳」の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる」であります。

本市の児童の学力については、平成29年度千葉市学力状況調査における意識調査や学校生活の見取りから、千葉市の児童は、社会生活に対する意識や行動が育っているものの、自尊感情や判断力などの低さ、人間関係をうまく結ぶことできない児童が多い傾向にあると見られます。道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深めること、多面的・多角的に物事を捉えること、そして、道徳教育の要としての道徳科において、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てることが課題と考えられます。

従って、教材のねらいが具体的で、児童が自分との関わりとして道徳的価値を捉え、主体的に考え、議論できるといった特色を有する教科用図書を選定する必要があるものと考えます。

教科用図書を選定するための観点については、54ページをご覧ください。

4つの視点、A、主として自分自身に関すること、B、主として人とのかかわりに関すること、C、主として集団や社会とのかかわりに関すること、D、主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関することであり、内容項目は、1、2年19項目、3、4年20項目、5、6年22項目設定されております。

調査研究報告書について、具体的に説明いたします。

「東京書籍」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、1年の70から72ページ、「みつけてみよう」に見られるように、様々な素材や方法を用いた活動型教材を導入することで、多様な考えを引き出すことができます。

また、「内容」(2)では、6年の80ページから83ページに見られるように、従来ですと文章だけで表現されていた教材が、漫画であらわされています。児童がより具体的な場面を理解できるのではないかというふうに思われます。

「学校図書」です。

「学習指導要領への対応」(2)では、1年の22ページ、「お手伝いじまん」などで見られるように、他教科等との連携を図りながら、学習の基盤と質・能力の育成や、道徳的価値の視点で学び深められるようになっていきます。

また、「内容」(2)では、3年の30ページ、「同じ仲間だから」に見られるように、重点項目について系統的に学習できるような配慮があります。

続いて、「教育出版」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、2年の47ページ、「はりきりパンダとだらだらパンダ」、5年の35ページ、「ロレンゾの友達」に見られるように、問題意識をもち、友達との学び合いを通じて、より深く自己を見詰めるための学習の流れを児童にわかりやすく提示しております。

「光村図書」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、2年の86ページから89ページ、「黄色いベンチ」に見られるように、手引が工夫されていて、話合いが進めやすくなっています。

同様に(2)では、3年の32、33ページ、「友だちのかかわりについて考えよう」に見られるように、生命尊重、いじめ、情報モラルなどの現代的な諸課題が取り上げられ、考えを深める構成になっています。

続いて、日本文教出版です。

「学習指導要領への対応」(1)では、1年52、53ページ、「はしのうえのおおかみ」などに見られるように、手引によって、問題解決的な学習、体験的な学習ができるような配慮がされています。

また、(2)では、全学年に「心のベンチ」があり、他教科への広がりや現代的な課題につながるような題材の配置などがされています。

同様に(2)では、全学年で年間3回、直接的・間接的にいじめを扱う「いじめ防止ユニット」が構成されており、児童が自分の生き方に考えを深め、命のすばらしさを感じる本市の教育施策の実現に資するような工夫があります。

「光文書院」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、6年の54ページ、「マナーからルールへ、そしてマナーへ」に見られるように、「問い

をもつ」「考える」「まとめる」「広げる」の4段階の指導過程が示されています。

また、(2)では、情報モラル、いじめ、防災、キャリア教育など、現代的課題に向き合うために教材・コラムで扱い、様々な角度から考えられるようになっています。

続いて、「学研教育みらい」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、問題解決的な学習や体験的学習に合った題材を随所に取り入れています。

「内容」(2)では、全学年に同じキャラクター「みらいくん」「あすかちゃん」が登場し、自分の成長と重ねながら考えられるようになっています。

また「造本」(1)では、1年の36ページ、「みんな あかちゃんだったよ」に見られるように、児童の感性に訴えることができる写真や絵を効果的に使用しています。

「廣済堂あかつき」です。

「学習指導要領への対応」(1)では、5年の47ページ、「科学者の姿勢から」、そして6年の25ページ、「法隆寺の鬼」に見られるように、特設ページがあり、学習の広がり・深まりが意識されています。

また、(2)では、全教材において「学習の道すじ」があり、学習問題と発問が明示されています。

なお、教科用図書の大きさ等については、光村図書がB5変型判、光文書院がA4変型判、学研みらいがA4判になり、その他5者はいずれもAB判でございます。

分冊に関しては、学校図書、廣済堂あかつき、日本文教が別冊ノートを扱っております。

以上で特別な教科「道徳」の報告を終わりにします。

磯野教育長 審議に移りますが、質問等を含め、何かございますか。

中野委員 基本的な質問なのですが、一昨年、道徳の教科書は選んだばかりですよね。それで、東京書籍になったと思うのですが、東京書籍の教科書は、大きく変わったのでしょうか。変わったところがあれば、どこが変わったのか教えてください。

岡田指導主事 今回の教科書の選定に当たっては、選定委員会の協議の中では、東京書籍は特には大きくは変わっていないということ、他の教科書会社のほうで考え、より議論するといったことを目指す方向で、改善策を提示していると伺っています。

中野委員 そうしますと、あんまりこれは変わっていないけれども、他者が変わったり、新しくなったので、改めて検討したいということでしょうか。

岡田指導主事 はい。

小西委員 2点教えていただきたいのですが、まず千葉市の子どもの課題と、全国的なものなのかもしれないのですが、教科書の内容は理解できると。ただ、自分の行動であったり、実際の場面に活かしていけないというような課題があるかと思うのですが、自分事に置き換えて考えられるような題材が豊富な者があれば教えてください。

あと、2点目なのですが、今年の中学校の道徳では日本文教出版を採用したかと思うのですが、実際に使用してみたの教員の教えやすさであったり、あと別冊ノートの使いやすさ、そのあたりの現場の感想があれば、教えていただければと思います。

岡田指導主事 まず1点目の子どもたちが自分のこととして考えさせる出版社ですが、日本文教出版が「見つめよう 生かそう」という、ページの最後に、今後の生活に生かせるような言葉が入っております。そこで、自分ごとを振り返るという時間が持てます。

また、光文書院でも、自分の生き方や生活を振り返り、実生活に広げていくというような投げかけが入っております。

2点目の別冊ノートにつきましては、3者が扱っております。中でも日本文教出版は、使い方が限定されず、教師の授業方法によって柔軟な書き方ができる、また、1年生にはシールや丸をつけるなど、児童の実態に合わせた配慮があると報告を受けております。

そのほかの出版社においては、学習の筋道に沿ったノートになっております。

中学校の教員は、まず授業をきちんと1時間1時間こなしていくということでは、ある程度限定されたノート、書き込みがしやすいようなノートのほうが良いという話を聞いております。

磯野教育長 本市は国の指定を受けて、独自教材を作って、これまでも取り組んできました。教員の皆さんが言うのは、読み物資料も含めて、そのようなものは大事だというように捉えてしまうわけです。

今、小西委員からもあったように、そのようなものがどれだけこの中にあるかということ、みんないいのはよくわかります。でも、どちらかということ、今、現実に起きていることというのは少しか

け離れていて、何かみんなもう最後は1個のまとめで終わるとい
う、何か感じになってしまう。現実においてはもっと生々しい状
況があるということを考えると、先ほど実態報告にあったように、
今は本当にいじめや、見えない部分で、表面に出てこない部分の
ことをどのように処理していくかという点で、いじめなどを扱う
ということは非常に重要だと思います。

ですから、それ以外も、これだけで全部解決するわけじゃない
ので、そういった教材については、引き続き市としては、大事に
取り組んでいってほしいと思います。

それと、命に関しての取り扱いも一方では大事であり、生命に
ついては私も安全・安心ということですと訴えてきました。こ
の中で、やはりコラムの中での生命などについても、しっかり情
報モラルを捉えた中で、きちんと書かれている会社もあるので、
この辺は皆さんがきちんと扱えれば、それがうまくできるかなと
思います。

先ほどあったように、中学校でノートをどう使うかというこ
とで議論された経緯は、確かに皆さん覚えています。やはり、若い
教員が多いという中で、一概にまとめることなのでノートだけで
いいのかという問題もあるのですけれども、現状ではそういった
ものをしっかり受けとめていくという点では、ノートを有効に使
っていくという点も観点に考えています。

和田委員

どの出版社も本当に読みごたえのある教材を扱っていると思
います。ただ、やはり読みごたえはあるのですけれども、なかな
か自分ごとに置きかえられないというのが、小西委員もおっしゃ
っていましたけれども、そこが教科としての難しさだと思います。
その中でやはり現実的な問題として、一番学校現場で起きている
ことの大きな問題の一つとしていじめがあると思うのですが、こ
れがユニットで扱われていることが、東京書籍が学びやすいとい
うふうに、話がありました。

教材については、おそらく子どもたちもこの教科書を手にして、
学校の授業で学習するもの以外も、読み物として読むということ
でも非常に読みごたえがあって、すばらしいと思います。

その中でも取り上げている教材が偉人伝に終始しないで、偉人
を支えた人が多く載っているなど、なかなか偉人にはなれないけ
れども、その次くらいならなれるというところの気持ちになれる
ので、そういった観点でも選んでみたいなと思いました。

それから、やはり学習の手引の綴り方なのですからけれども、ないほうが子どもたちが主体的に学べるのか、余り詳しく載せないほうがいいのか、それでもある程度指針があって、自分ごととして捉えるようなコメントは載っていたほうが、その点は教えやすさにも通じると思うのですが、どちらがいいのか、これも本当に迷うところなのですが、そこはどうでしょうか。

岡田指導主事 発達の段階にもよるかと思うのですけれども、ないほうが子どもたちの自由な発想や考え方を深めていける、広げていけるということではいいと思います。あっても、できない自分はなぜなのか、もっと深く考えて自分を見つめ直してみようという点も、学習としては大事だと思っております。

和田委員 ノートというのでも大きな部分だと思いますが、私は、日本文教出版においては、上のほうがもう課題が決まっていてそれに対する答えで、下の欄は自由に書けるということで、別のノートを作らなくてもこれで完結するという意味で、使い勝手がいいのかなというふうに思いました。報告も同じということで、よろしくお願ひします。

中野委員 他にも出ていますように、どの教科書も内容的には変わりがないということかと思ひますけれども、私は、日本文教出版のいじめの、先ほど出ましたけれども、それに対しては、単に理解して、終わらせるだけじゃなくて、そのあとどう考えるのかということがあって、考えさせるということでは、いじめも大きな問題となっていますので、その観点に関してはこの会社のほうがいいかなと思ひます。

和田委員 自己肯定感や自己有用感の向上ということが、これは千葉市の子どもだけではなくて、日本人に必要だというふうに言われていますけれども、これらの教科書のどのようところが、向上につながられるのか、指導の中でどのようにしていったらいいのかということ、教えていただければなと思ひます。

岡田指導主事 やはり今回、道徳が教科化になった背景に、多面的・多角的に物事を見るという点で考え、議論する道徳を目指そうというふうにあります。その中で議論というところなのですからけれども、クラスみんなで問題について考え、解決に向かっていくなど、もしくはグループ内、小さなグループで考えていくなどというふうには、そのようなことを考えると、自分をきちんと評価し受け入れたり、自分の意見をしっかりと伝えて、自己決定できたりすれば、

その集団の人間関係の中でしっかり生活していけているということを感じて、自分自身が感じていける、というふうに思いますので、そのような教材が手引きとしてあれば、非常に子どもたちにも影響があると考えます。

磯野教育長 その他にご意見等ありませんか。

では、ご意見、ご質問がございませんので、これより、令和2年度に本市立小学校において使用する「道徳」の教科用図書を決定いたします。

それでは、採決に移ります。小学校用教科用図書「道徳」の発行者は8者、「東京書籍」「学校図書」「教育出版社」「光村図書出版」「日本文教出版」「光文書院」「学研教育みらい」及び「廣済堂あかつき」です。この8者から投票により決定いたします。事務局より、投票用紙を配付してください。

(投票用紙の配付後、教育委員、投票。事務局において、開票・集計し、教育長へ報告)

磯野教育長 では、ただいまの投票結果について報告いたします。

日本文教出版、5票。日本文教出版が過半数を得ましたので、これを採択することと決定いたしたいと考えますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」という声あり)

磯野教育長 ご異議ないようですので、令和2年度に本市立小学校において使用する「道徳」の教科用図書は、「日本文教出版」と決定しました。

《総括》

磯野教育長 以上で、議案第36号に係る、「令和2年度使用千葉市立小学校用教科用図書の採択について」は、11教科13種目について、採択が終了しました。

確認しますと、

国語（国語	）	「光村図書出版」
書写（小学書写	）	「教育出版」
社会（新しい社会	）	「東京書籍」
地図（楽しく学ぶ小学生の地図帳	）	「帝国書院」
算数（わくわく算数	）	「新興出版社啓林館」
理科（たのしい理科	）	「大日本図書」
生活（たのしい生活	）	「大日本図書」
音楽（小学生の音楽	）	「教育芸術社」

図画工作（図画工作） 「日本文教出版」
家庭（小学校 わたしたちの家庭科） 「開隆堂出版」
保健（新しい保健） 「東京書籍」
英語（Junior Sunshine） 「開隆堂出版」
道徳（小学道徳 生きる力） 「日本文教出版」
となりました。以上、よろしいでしょうか。

（「異議なし」という声あり）

磯野教育長 それでは、ただ今のとおり決定いたします。

7 その他

- (1) 採択結果について、千葉市ホームページ上で当日中に公開することを教育指導課長から伝えられた。
- (2) 第8回定例会は、調整の結果、8月27日（火）午後2時より開催することを決定した。

8 閉会

磯野教育長より閉会を宣言